

日本気象学会 2008年度春季大会

会期：2008年5月18日（日）～21日（水）

会場：横浜市開港記念会館（横浜市中区本町1-6）
横浜情報文化センター（横浜市中区日本大通11）

大会実行委員会担当機関：海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター
海洋研究開発機構地球環境観測研究センター
海洋研究開発機構地球シミュレータセンター
防衛大学校地球海洋学科

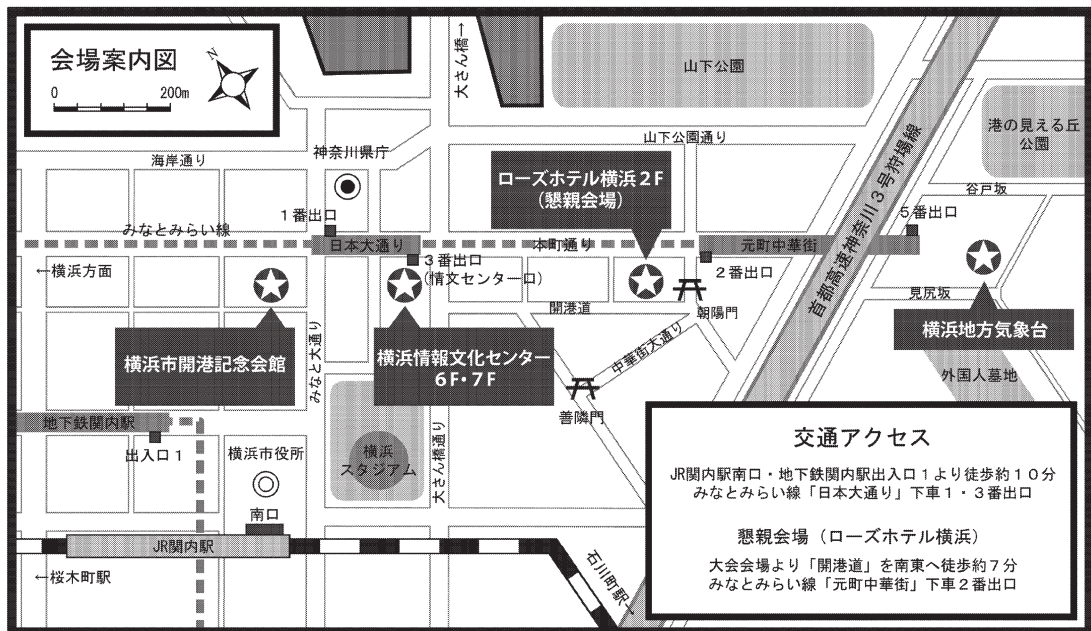
後援：横浜市環境創造局
横浜地方気象台
横浜観光コンベンション・ビューロー

大会委員長：時岡達志（海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（開港記念会館2階7号室）
TEL: 090-6046-4671（直通：学会開催期間のみ有効）
※大会参加者への伝言は、開港記念会館1階玄関ロビー付近の掲示板上に掲示します。
取次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

大会実行委員会からのお願い：横浜市の取り組みの一環で横浜市関連施設である大会両会場には原則としてごみ箱が設置されていません。ごみのお持ち帰りにご協力頂きますようお願い致します。

会場案内図



大会行事予定

A会場 : 開港記念会館講堂
 B会場 : 情報文化センター情文ホール (6F)
 C会場 : 開港記念会館1号室 (1F)
 D会場 : 開港記念会館6号室 (2F)
 ポスター会場: 情報文化センターホワイエ (6F), 大会議室 (7F)
 総会・記念講演・公開講演会・シンポジウム : 開港記念会館講堂

企業展示会場 : 情報文化センターラウンジ (6F,7F)
 受付 : 開港記念会館3,4,5号室 (1F)
 大会事務局 : 開港記念会館7号室 (2F)
 懇親会 : ローズホテル横浜2F (横浜市中区山下町77, 会場より徒歩10分)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 18日 (日)	10:00～ 11:30	気候システムI (9, A101～A109)	気象予報 (9, B101～B109)	微量気体 (7, C101～C107)	大気力学I (9, D101～D109)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (49, P101～P149)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会	専門分科会 (18, B151～B168) 「衛星による降水観測 : TRMM 10周年を迎えて」	専門分科会 (13, C151～C163) 「大気リモートセンシングデータ解析技術における工夫」	専門分科会 (6, D151～D156) 「季節予報を定量的に利用する」
5月 19日 (月)	09:30～ 11:30	気候システムII (11, A201～A211)	降水システムI (13, B201～B213)	エアロゾル (12, C201～C212)	大気力学II (12, D201～D212)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (49, P201～P249)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞・藤原賞受賞記念講演			
	18:30～ 20:30	懇親会			
5月 20日 (火)	09:30～ 11:30	気候システムIII (13, A301～A313)	降水システムII (12, B301～B312)	観測手法 (13, C301～C313)	大気境界層I (11, D301～D311)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (49, P301～P349)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「海洋観測が切り拓く気候システム科学」			
5月 21日 (水)	09:30～ 11:30	気候システムIV (12, A401～A412)	雲物理 (13, B401～B413)	熱帯大気 (13, C401～C413)	大気境界層II (6, D401～D406) 相互作用 (5, D407～D411)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (49, P401～P449)			
	13:30～ 17:00	専門分科会 (17, A451～A467) 「南極大型大気レーダーを軸とした極域大気研究の可能性」	専門分科会 (17, B451～B467) 「CMIP3マルチ気候モデルにおける大気海洋諸現象の再現性比較」	専門分科会 (9, C451～C459) 「広域スケールの陸域生物圏研究に関する最新の動向」	専門分科会 (10, D451～D460) 「持続可能で安全な都市環境への気象研究の役割」

発表件数 : 466件 (専門分科会90, 口頭発表180, ポスター196)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail:kouenkikaku2008s@mri-jma.go.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は9分（講演7分・質疑2分）です。
- 専門分科会の各講演の持ち時間は分科会毎に決められています。詳細は各分科会のプログラムをご覧ください。
- 講演にはPCプロジェクターとOHPが使用できます。
- 止むを得ない事情で使用機器が講演申込時に予め届け出ていた機器と異なる場合は、セッション開始前までに座長と会場係にその旨を申し出て下さい。
- PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦150 cm×横90 cmとなっています。
- ポスターの掲示にあたって画紙、ピンが使用できますが、糊、テープ等は使用できません。必要な画紙、ピンは各自で用意して下さい。
- ポスターの掲示可能時間は以下の通りとなっています。会場の都合上時間厳守をお願いします。
 - 第1日（5月18日）9:30-17:00
 - 第2日（5月19日）9:30-17:30
 - 第3日（5月20日）9:30-17:00
 - 第4日（5月21日）9:30-15:00
- ポスターは各自が責任を持って撤収し、お持ち帰り頂けますようお願い致します。大会会場ではごみの回収ができませんので、大会実行委員会による掲示時間終了後の撤収は行いません。
- ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

シンポジウム「海洋観測が切り拓く気候システム科学」

日時：大会第3日（5月20日）13:30～17:00

会場：開港記念会館講堂（A会場）

司会：河宮未知生（海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター）

趣旨：

エルニーニョや地球温暖化など、数年より長い時間スケールで気候の変動・変化を予測するためには、海洋垂表層以深の観測データが本質的に重要となる。また熱帯におけるMJO振動など、海洋上で発生する短周期現象の機構解明のためには高い時空間分解能をもつ海洋観測網が不可欠である。近年、こうした認識と技術革新があいまって、海洋観測データの量と質は大幅に向上している。本シンポジウムでは、急速な進歩を遂げる海洋観測技術と、格段の拡充が進む海洋観測網の現状を紹介し、あわせて数値シミュレーションへのインパクトも論じる。講演と討論を通じ、大気・海洋などさまざまな構成要素間の相互作用の総体としての「気候システム」を理解するために海洋観測が果たす役割について、会員諸氏の認識が深まることを期待している。

基調講演：

- 1) 「Argoの成果と可能性」
須賀利雄（東北大学大学院理学研究科／海洋研究開発機構地球環境観測研究センター）
- 2) 「歴史的海洋観測データに見る海洋気候の変化とデータ同化による20世紀気候再現」
石井正好（海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター）
- 3) 「インド洋における大気・海洋集中観測MISMO ー目指したもの、得たもの、残したものー」
米山邦夫（海洋研究開発機構地球環境観測研究センター）
- 4) 「全球雲解像モデルNICAMによるMISMO-MJO再現実験」
佐藤正樹（東京大学気候システム研究センター／海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター）
- 5) 「北極海のカタストロフ的な変化」
島田浩二（東京海洋大学海洋科学部／海洋研究開発機構地球環境観測研究センター）

総合討論

総 会

日時：大会第2日（5月19日）13:30～15:20

会場：開港記念会館講堂（A会場）

議事次第

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 開会 | (3) 2007年度監査報告 |
| 2. 議長選出 | (4) 第35期役員を選任 |
| 3. 理事長挨拶 | (5) 名誉会員の推薦 |
| 4. 2008年度学会賞授与 | (6) 2008年度事業計画案 |
| 5. 2008年度藤原賞授与 | (7) 2008年度収支予算案 |
| 6. 議事 | (8) その他 |
| (1) 2007年度事業報告 | 7. 議長解任 |
| (2) 2007年度収支決算報告 | 8. 閉会 |

専門分科会の概要紹介

2008年度春季大会では下記の通り、7件の専門分科会が開かれます。

衛星による降水観測：TRMM 10周年を迎えて

日時：大会第1日（5月18日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：熱帯降雨観測衛星（TRMM）は2007年11月末に10年間の観測を達成する。TRMMは世界で初めて降雨レーダを搭載することにより、熱帯・亜熱帯域の降水量推定精度の向上や降水システムの理解に大きく貢献してきたが、さらに長期間のデータが利用可能となったことにより、降水の年々変動などの研究にも役立てられ始めている。またTRMMは衛星群による降水分布観測の中で、重要な役割を演じている。例えば、我が国でもマイクロ波放射計による全球降水マップ作成プロジェクト（通称 GSMaP）が2002年から2007年の5年間、（独）科学技術振興機構（JST）の/戦略的創造研究推進事業（CREST）水循環テーマの一環として実施され、世界に比肩するアルゴリズムの開発が行われた。本専門分科会では、TRMM観測10周年を機に全球降水の長期データの利用および研究から得られた成果や、TRMMの後継計画である全球降水観測計画（GPM）時代における全球降水データの応用や将来展望について議論を行いたい。

コンビーナー：沖 理子（宇宙航空研究開発機構）、高橋暢宏（情報通信研究機構）、中澤哲夫（気象研究所）

大気リモートセンシングデータ解析技術における工夫

日時：大会第1日（5月18日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：近年、衛星搭載センサーや地上リモートセンシング技術の向上により、これまで検出が難しかった新たな大気物理量の抽出が可能になりつつある。これらは単に検出器の技術的な向上のみならず、データ解析手法における様々な工夫が為し得たものである。本分科会は、このようなリモートセンシングデータの解析技術について、“なるほど”と思われる工夫を紹介しあい、基本技術や観測対象の異なる研究者間で、新たな工夫や応用に繋げるための情報交換の場としたい。今回は特に大気中気体成分の導出手法につ

いて、衛星観測、地上観測（受動型）、ライダー観測などの分野の話題を集めたい。ただ、それ以外の話題でもおもしろいと思われるものであれば何でも歓迎であるので、是非とも投稿頂きたい。

コンビーナー：今須良一、齋藤尚子（東京大学気候システム研究センター）、笠井康子（情報通信研究機構）、杉本伸夫、太田芳文（国立環境研究所）

季節予報を定量的に利用する

日時：大会第1日（5月18日）13:30～17:00

場所：D会場

趣旨：気象庁が世界に先駆け、アンサンブル手法による数値予報を季節予報に導入してからおよそ12年がたち、数値予報結果の特性などの知見も蓄積されてきた。いうまでもなく、毎回の予報のためには膨大な数値計算が行なわれており、これら膨大なデータをもっと活用する術はないのか、特に、定量的な利用はできないのかということに期待したくなる。他方、利用するには、対象とする現象によってどのような影響が現れるのか、影響を軽減するための方策、そのために必要な情報や精度など、といった点が明確になっていないと難しい。このような観点から、情報を提供する側、利用する側双方から、定量的な利用に向けての世界の動向、季節予報利用の現状や課題などを提起しあい、定量的利用に向けて、何が必要か、何をすべきかなどについて議論する。なお、利活用ということに重きをおき、予測手法・予測技術は話題としない。

コンビーナー：渡辺典昭（気象庁気候情報課）、登内道彦（気象業務支援センター）、経田正幸（気象庁気候情報課）

南極大型大気レーダーを軸とした極域大気研究の可能性

日時：大会第4日（5月21日） 13:30～17:00

場所：A会場

趣旨：南極昭和基地は、気象庁定常観測、極地研を中心とした各研究機関による大気研究観測が精力的に行なわれ、世界的に見ても数少ない総合大気観測拠点となっている。南極大気は人間活動から隔絶されているため、ノイズが小さく、地球気候のモニタリングに適しており、また、カタバ風や、オゾンホール、夜光雲、オーロラなど、顕著な（シグナルが大きい）大気現象が見られる領域でもある。しかしながら、下層大気と超高層大気をつなぐ中層大気の観測は手薄であり、上下結合がとりわけ重要な極域大気研究は他の緯度帯に比べれば、遅れているといわざるを得ない。2000年に始まった南極昭和基地大型大気レーダー計画（PANSY）では、この問題を克服し、既存の大気観測をつないで極域大気全体を統合的に捉えるため、南極で運用可能な大型大気レーダー（MSTレーダー）の開発およびフィールドビリティスタディを行なって来た。現在、ほぼ全ての問題点を解決し、実現可能なシステムが見えてきた。この計画の国内外の評価は高く、IUGGを初め、関連するほとんどの国際学術組織からの支持を得ている。PANSY研究グループでは、毎年極地研を中心に研究集会を開催し、技術開発および科学目標について広く議論を積み重ねてきた。本分科会では、気象学会の多くの会員に参加いただき、本計画の意義や可能性についてさらに議論を深めたいと考えている。

コンピーナー：佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科）、山内 恭、堤 雅基（国立極地研究所）、齊藤昭則（京都大学大学院理学研究科）、富川喜弘（国立極地研究所）

CMIP3マルチ気候モデルにおける大気海洋諸現象の再現性比較

日時：大会第4日（5月21日） 13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：地球温暖化に伴う環境変化が、具体的にいかなる現象としてどのような振幅で発現し得るかは、私達の生活にとって重要な問題である。世界各国の機関において温暖化の将来予測のための気候モデルシミュレーションが行われ、IPCCの第4次報告書にその新しい知見が集約された。本専門分科会では、様々な大気海洋現象に焦点をあて、WCRP第3次結合モデル相互比較プログラム（CMIP3）の下に集約されているマルチモデル20世紀結合実験結果と観測データとの比較解析によって大気海洋諸現象についての気候モデル再現性を検討した研究成果を持ち寄り、個々の現象の再現性およびそれらの相互関係を議論する。この議論を通じて、現象変化予測のためのモデルの検討に資するとともに、対象とする現象のメカニズムについての理解を深め、温暖化の影響でそれらが将来被り得る変化・変調についての予測結果の解釈にも資することを目標とする。

コンピーナー：高薮 縁、木本昌秀（東京大学気候システム研究センター）、尾瀬智昭（気象研究所）、中村 尚（東京大学大学院理学系研究科）

広域スケールの陸域生物圏研究に関する最新の動向

日時：大会第4日（5月21日） 13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：陸域生物圏-大気間の相互作用プロセスは、広域スケールの気候形成に対して様々な影響を与え、地球環境を理解する上で重要な研究対象となっている。例えば第2期I GBPでは、iLEAPS（統合的陸域生態-大気プロセス研究）がコアプロジェクトとして推進されているし、地球システム統合モデル開発でも生物圏プロセスの取り込みは大きな課題の1つとなっている。本専門分科会では、従来の気象学で着目されてきた熱水収支だけでなく、物質交換の観測・モデリングや衛星観測とデータ同化などのトピックスを取り上げ、この分野の最新動向を紹介する。各種プロジェクトが平行して進められている現状を踏まえ、大気研究との学際的な情報交換を促進するとともに、今後の課題の明確化と効果的な研究推進について議論を行いたい。

コンピーナー：伊藤昭彦（国立環境研究所）、馬淵和雄、青木輝夫（気象研究所）、大谷義一（森林総合研究所）、西田顕郎（筑波大学）、佐々井崇博（産業総合技術研究所）

持続可能で安全な都市環境への気象研究の役割

日時：大会第4日（5月21日） 13:30～17:00

場所：D会場

趣旨：近年世界的に都市への人口集中が続く中、東京サリン事件、2003年のヨーロッパでの熱波など、気象が関連する都市の自然的・人為的災害や都市環境に対する世界的な関心が高まっている。2009年6月の第7回国際都市気候会議（横浜）を前に、都市気候・気象に関する観測的研究、数値モデルによる研究、これらの社会的問題への応用研究等について相互の連携を促進する専門分科会を開催する。特に①複雑で多様性を持つ都市空間における気象観測データを今後どのように整理していくのか、②メソスケールからマイクロスケールの気象モデルはどのように設計されるべきか、③これらのモデルに組み込まれる都市情報はどのように取得され整理されるべきか、④研究の結果はどのように社会に伝達・還元されるべきか等の直面する課題に対して議論と連携を深めたい。なお、講演についてはかなりの部分を招待講演とすることを予定しています。また、単に事例研究的な発表ではなく上記4点のいずれかについて明瞭なアイデアをお持ちの一般発表を歓迎いたします。

コンピーナー：近藤裕昭（産業技術総合研究所）、足永靖信（建築研究所）、一ノ瀬俊明（国立環境研究所）、神田学（東京工業大学）、日下博幸（筑波大学）、菅原広史（防衛大学校）、藤部文昭（気象研究所）、持田 灯（東北大学）、森山正和（神戸大学）、森脇 亮（愛媛大学）

公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は無料・事前の申込みも不要です。

日時：2008年5月18日（日）（大会第1日） 13:30～16:30
 場所：開港記念会館講堂（A会場）
 趣旨：日本気象学会2008年度春季大会の横浜での開催にあわせて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果をわかりやすく解説することを目的とした公開講演会を開催します。今回は、昨年ノーベル平和賞を受賞したIPCC（気候変動に関する政府間パネル）によってまとめられた第4次評価報告書に書かれた地球温暖化に関する最新の科学的知見と、今年から始まる京都議定書の実施に向けた横浜市内での取り組み、更に、横浜市内で活動する市民団体（NPO）の活動について、中・高生にも分かるようにやさしく解説します。

テーマおよび講演者：

1. 「IPCC第4次評価報告書にみる地球温暖化」近藤洋輝氏
地球環境フロンティア研究センター特任上席研究員
2. (仮) 「脱温暖化都市横浜を目指して」横浜市環境創造局温暖化対策課長（4月からは新組織に移行予定）
3. (仮) 「市民団体の取り組み」佐藤一子氏 特定非営利活動法人ソフトエネルギープロジェクト理事長

問い合わせ先：古川武彦（気象コンパス）

E-mail：takefuru@eos.ocn.ne.jp

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込みも不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

第30回メソ気象研究会

日時：2008年5月17日（土）（大会前日） 13:30～17:00

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

テーマ：「雪や降雪研究の最近の展開」

コンピナー：遊馬芳雄（琉球大理）

内容：2005/06年冬季の豪雪は我々の記憶に新しいところですが、昨年、今年の冬は降雪量が少ないにもかかわらず、2月下旬には北海道や北日本を暴風雪が襲い、入学試験が延期され、航空や鉄道、道路などにも大きな影響が出ました。雪や降雪問題はメソ気象研究の重要な課題ですが、過去のテーマを調べたところ、最近メソ研究会であまり取り上げられていません。そこで今回のメソ研究会では雪や降雪に焦点をあてました。最近精力的に観測が行われている人工降雪実験、マルチパラメータレーダーによる粒子判別、雪粒子浮遊による低温室実験の観測と実験の三つの話題を前半に、そして、後半にはモデルと観測の比較実験、シアラインでの渦状降雪雲の力学過程についての講演をお願いします。雪や降雪現象は古くて新しいテーマですが、新しい試みや知見も数多く得られています。多くの方々のご参加と活発な議論をお願いします。

プログラム：

- 13:30-13:35 趣旨説明
 13:35-14:15 村上正隆（気象研）人工降雪研究の現状
 14:15-14:50 岩波 越（防災科研）Xバンド偏波レーダーによる降雪雲の粒子判別
 14:50-15:30 高橋庸哉（北教大）実験室から降雪過程を読む～鉛直過冷却雲風洞による雪結晶浮遊成長実験から～
 15:30-15:40 休憩
 15:40-16:15 中井専人（防災科研）降雪特性の観測とモデルによる再現性
 16:15-16:50 川島正行（北大低温研）シアライン上に生じる渦状降雪雲の数値実験

16:50-17:00 総合討論

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象研）、小倉義光（東大海洋研）

連絡先：遊馬芳雄（琉球大理）E-mail：asuma@sci.u-ryukyuu.ac.jp

第4回気象庁数値モデル研究会

気象庁では、気象学の分野で用いられているさまざまな数値モデルに関する情報交換の場として、平成17年度から「気象庁数値モデル研究会」を開催しています。今年度は、雲解像モデルの物理過程のなかで、顕著現象のシミュレーションや温暖化予測の不確定性の最大要因である雲・放射・エアロゾルフィードバックの研究に深い関わりを持つ雲物理過程に焦点をあて、最新の研究を取り上げます。さらに、モデルを用いた研究に取り組みたいと考えておられる研究者のみならず、気象庁非静力学モデルで実データシミュレーションを行う方法を紹介します。モデルの開発者、利用者など関係各位の幅広い参加を期待いたします。詳しくは、数値予報研究開発プラットフォームのホームページ（<http://pfi.kishou.go.jp>）でもお知らせいたします。

日時：2008年5月17日（土）（大会前日） 17:30～19:30

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

話題および講演者：

- 「雲物理過程モデリングの現状と最新の研究」
 成田正巳（気象庁数値予報）気象庁メソ数値予報モデルにおけるシングルモーメントバルク法雲物理過程
 橋本明弘（気象研）雲物理過程モデリングの近未来像 統一的雲物理モデリング～エアロゾルへの拡張～
 井口享道（東大気候システム）雲の鉛直微物理構造と放射
 荒波恒平（気象庁数値予報）気象庁非静力学モデルをインストールしたブータブルDVDによる実データシミュレーション

参加費：無料

注意事項（第30回メソ気象研究会及び第4回気象庁数値モデル研究会共通）：自家用車での来庁はご遠慮下さい。

当日は閉庁日ですので、正面玄関(KKR東京側)のみ開いています。研究会の受付で名札を受け取り、着用して下さい。

問い合わせ先：気象庁総務部企画課 横山 博
(気象庁モデル技術開発推進本部事務局)
TEL：03-3212-8341 (内線2227)
E-mail：hiroshi.yokoyama@met.kishou.go.jp

惑星大気研究連絡会

日時：2008年5月17日(土) (大会前日) 13:30～18:00
場所：東京大学(本郷キャンパス)・理学部3号館320号室(3階大教室)

テーマ：金星大気循環の多重平衡解

内容：一昨年 ESA の Venus Express が金星に到着したのに引き続き、2010年には日本の金星気象衛星 Planet-C の打ち上げが予定され、金星大気に関する関心が世界的に高まっています。Planet-C の主要な科学目標である金星大気スーパーローテーションに関しては、近年、日本を中心に数値実験的研究が進み、興味深い結果が得られつつあります。最近では、スーパーローテーションの生成・維持における平均東西流と子午面循環(および夜昼間対流)の相互作用の重要性が明らかになってきました。また、地上観測からも上層大気の大気現象における夜昼間対流と平均東西流の重要性が示唆されています。そこで今春の惑星大気研究連絡会では、金星大気研究の初期段階に提出され、現在再び注目を集めている「金星大気循環の多重平衡解」に関する勉強会を企画しました。この理論によれば、金星では2つの異なる大気の運動状態、即ち一つは強い平均東西流と弱い子午面循環の組合せ、もう一つは弱い平均東西流と強い子午面循環の組合せ、がともに実現可能であり、そして、現在の金星下層大気では何らかの理由で前者が実現していることとなります。また、見方をかえれば、下層での平均東西流の卓越、上層での夜昼間対流の卓越という観測事実の両方を説明するとも考えられます。今回の勉強会の前半では、理論の提唱者である松田先生に金星研究の歴史を振り返りつつ金星大気力学の初歩から多重平衡解まで丁寧に説明して頂き、後半では城戸さんに大循環モデルを用いて多重平衡解の再現に成功した最新の研究成果を紹介して頂く予定です。講演および質疑応答には十分な時間を確保したいと思いますので、惑星大気研究者はもちろん、初学者の皆様、惑星大気を専門としないが興味をお持ちの幅広い分野の皆様も含め、ご参加をお待ちしております。

プログラム(予定)：

1. 「金星大気循環の多重平衡解」
松田佳久(東京学芸大学・自然科学系)
2. 「金星GCMによる多重平衡解の再現実験」
城戸敦蒼(九州大学・総合理工学府)

連絡先：高木征弘(東大理)
TEL：03-5841-4285, FAX：03-5841-8791
E-mail：wtk-staff@gfd-dennou.org
URL：http://wtk.gfd-dennou.org/

気象教育懇談会

気象学は最も身近な自然科学の一つであるとともに、自然環境にも密接に関係し、21世紀の自然科学教育において重要な位置を占めています。そこで、気象学に関わる教育やアウトリーチについての問題を考える場として気象教育懇談会を開くことに致しました。学校教育に限らず、研究者、気象業務担当者、高等教育関係者にお集まり頂き、情報交換ができればと考えております。本年は、気象予報士としてマスコミ等でご活躍の方から話題提供を頂き、意見交換したいと思います。

日時：2008年5月18日(日) (大会第1日) 17:15～19:15
場所：開港記念会館1号室(C会場)

講師：田代大輔(気象協会)ほか

問い合わせ先：畠山正恒(聖光学院中学高等学校)
E-mail：hatakeya@hotmail.com

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2008年5月20日(火) (大会第3日) 17:15～2時間程度
場所：開港記念会館講堂(A会場)

話題：さまざまな視点で見た北極圏の変化

小林宏之(日本航空)「パイロットから見た北極圏の変化」
猪上 淳(IORGC)「止まらない北極海の海水減少」
飯島慈裕(IORGC)「水循環変化がもたらすシベリア凍土環境の変化」
齋藤冬樹(FRCGC)「氷床変動のシミュレーションについて」

今回の極域・研究連絡会は、21世紀になって顕著な変化が観測されるようになった北極圏についての講演会です。この数年、北極海では海水の減少が顕著で、昨年秋には海水面積が観測史上最小を記録しました。また、IPC 4次報告において、21世紀後半には夏の北極海海水の大部分が消滅する可能性が指摘され、マスコミでも大きく取り上げられるなど、北極圏の気候変化は社会的にも大きな注目を集めています。また、北極海付近だけでなく、シベリアなど大陸の高緯度地域でも注目すべき変化が起きています。そこで、今回は、様々な視点から北極圏の変化を論ずべく、4名の方に講演をお願いしました。まず、日本航空(JAL)の現役機長より講演をして頂きます。実際の飛行中に撮影された海水やシベリア上空の写真を紹介して頂きながら、ご自身で目の当たりにされた環境変化についてお話を頂く予定です。続いて、観測による海水変動及びシベリア凍土の変動について、さらに数値モデルによる温暖化実験で見られる雪氷圏の将来予測について、最新の研究成果をご紹介頂く予定です。

代表：山崎孝治(北大院地球環境)

世話人：平沢尚彦(極地研)、中村 尚(東大院理)、浮田甚郎(新潟大自然科学)、高田久美子(FRCGC)、阿部彩子(東大気候システム)、佐藤 薫(東大院理)、本田明治(FRCGC)、齋藤冬樹(FRCGC)、猪上 淳(IORGC)、高谷康太郎(FRCGC)

URL：http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl.index

問い合わせ先：高谷康太郎(FRCGC)
TEL：045-778-5526, FAX：045-778-5707
E-mail：takaya@jamstec.go.jp

オゾン研究連絡会

日時：2008年5月20日（火）（大会第3日）セッション終了後から2時間以内

場所：開港記念会館1号室（C会場）

内容：昨年、成層圏オゾン破壊で中心的な役割を担っているClOOClの光解離に関して、その吸収断面積の新しいデータが報告されました。それによると従来の推奨値よりも吸収断面積が低いことになり、これまでのオゾンホール発生メカニズムに本質的な修正が迫られる、という事から多くの関心を呼んでいます。今回のオゾン研究連絡会では、測定に関する基礎的な話を含め、新たに報告さ

れたClOOClの吸収断面積に関してお話をさせて頂く予定です。関心をお持ちの方は是非お集まり下さい。

講演者および講演題目：

高橋けんし（京大）「ClO二量体が成層圏オゾン破壊に及ぼすインパクトに関する最近の研究のレビュー」

世話人：笠井康子（NICT）、川上修司、河本望（JAXA）、永島達也（環境研）、庭野将徳（FRCGC）、村田功（東北大院環境科学）

連絡先：村田功（東北大院環境科学）

TEL：022-795-5776, FAX：022-795-5775

E-mail：murata@pat.geophys.tohoku.ac.jp

横浜地方気象台見学ツアーのお知らせ

今回の横浜地区における大会開催にあたり、横浜地方気象台のご協力により、気象台見学ツアーが実施できることになりました。神奈川県気象業務の拠点である横浜地方気象台は1896年（明治29年）8月1日に、神奈川県測候所として設立、昭和2年に横浜港を見下ろす所在地（山手町）に移りました。簡易なアールデコ様式の庁舎は横浜のシンボルの一つとして市民に親しまれてきました。現在増改築工事のため、見学内容は一部制限されますが、最近では一般の学会員が目にする機会の少なくなった観測や予報業務の現場に直接触れることの出来る絶好の機会ですので、是非御参加下さい。

実施日：2008年5月19日（月）、20日（火）

見学時間：11時00分、13時30分の2回、各50分程度

見学人数：各回10人2組で一日当たり40人、両日で合計80人（最大）

見学場所：新庁舎（現業室）、露場（旧庁舎は工事のため見学できません）

参加方法：

- 大会期間中、開港記念会館内の受付場所にて、申込票に必要事項を記入し参加予約をして下さい。その際に整理券をお渡しし、集合場所・時間をお知らせします。各回とも規定の人数に達し次第締め切ります。
- 申込時にお伝えした集合時間前に、整理券を持って大会会場内の指定集合場所に集まって下さい。気象台付近の現地集合場所まで引率者が案内します（路線バス利

用予定）。引率の不要な方は、申込時にお伝えする現地集合場所まで直接行って頂いてもかまいません（要整理券）。移動の際の交通費（実費）は各自ご負担下さい。

- 現地集合場所で整理券を回収した後、引率者の指示に従って気象台を訪問します。（業務に支障を来しますので、見学者が直接気象台を訪問することは絶対にお止め下さい。）

注意：警報が発表される等、当日の状況によっては、見学が急遽中止になる場合もあります。あらかじめご了承下さい。

担当：村上茂教（海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター）

問合せ用e-mailアドレス：msj2008req@jamstec.go.jp

（気象台への直接のお問い合わせはご遠慮願います）

（参考）横浜地方気象台へのアクセス

- ・大会会場周辺より徒歩約30分
- ・みなとみらい線「元町・中華街」下車、徒歩約10分
- ・JR「石川町」下車、徒歩約20分
- ・路線バス「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分

（大会会場周辺からは、以下の2系統が利用できます）

神奈川中央交通11系統（保土ヶ谷駅東口行）、「日本大通り・県庁前」より約6分

横浜市交通局 あかいくつバス（港の見える丘公園前行）、「日本大通り」より約18分

保育施設幹旋について

今大会では、保育施設の幹旋ならびに保育施設利用の一部補助を行います。利用を希望される方は下記の担当者までご連絡ください。

連絡先：E-mail: msj2008req@jamstec.go.jp

担当：吉田 聡（海洋研究開発機構地球シミュレータセンター）

TEL：045-778-5866, FAX：045-778-5492

秋季大会の予告

2008年度秋季大会は、2008年11月19日（水）～21日（金）に仙台国際センターで開催される予定です。

大会第1日 [5月18日 (日)] 10:00~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システムI

座長 : 栗原 和夫 (気象研)

- A101 栗原 和夫 (気象研) 雲解像領域大気モデルの高解像度化と温暖化による極端現象の変化予測
- A102 中野 満寿男 (AESTO) 水平解像度5km非静力学モデルによる領域温暖化予測実験: 完全境界実験による精度評価
- A103 金田 幸恵 (AESTO/気象研) 水平解像度5km/1km非静力学モデルによる領域温暖化予測実験予備実験: 大雨事例の抽出と5km/1km-NHMの結果の比較
- A104 大泉 三津夫 (気象研) NHM地域気候モデルの降積雪特性
- A105 足立 幸穂 (筑波大院生命環境) 2070年代における首都圏の夏の気温予測の試み
- A106 吉兼 隆生 (FRCGC) 領域気候モデルを用いた温暖化による大規模循環場の変動特性調査
- A107 川瀬 宏明 (FRCGC) 疑似気候再現/疑似温暖化手法を用いた中国揚子江流域における過去の降水変動の再現とその将来予測
- A108 原 政之 (FRCGC) 疑似温暖化手法を用いた温暖化の冬期降水への影響の評価
- A109 吉兼 隆生 (FRCGC) 疑似温暖化手法を用いた地球温暖化による冬季河川流量の影響評価

大会第1日 [5月18日 (日)] 10:00~11:30 一般口頭発表**B 会場****気象予報**

座長 : 酒井 亮太 (気象庁数値予報)

- B101 岩村 公太 (気象庁数値予報) 気象庁全球数値予報モデルの高解像度化
- B102 酒井 亮太 (気象庁数値予報) 気象庁週間アンサンブル予報システムの高度化
- B103 米原 仁 (予報部数値予報課) 確率的物理過程強制法によるモデルアンサンブルの開発
- B104 近藤 圭一 (筑波大院生命環境) 順圧大気大循環モデルを用いたEKFとEnKFの比較実験 その2
- B105 小山 博司 (北大院環境) アンサンブル予報におけるモデル誤差の影響 -EnKFを用いて-
- B106 三好 建正 (気象庁数値予報) アンサンブルカルマンフィルタの誤差共分散膨張法の比較
- B107 斉藤 和雄 (気象研) WWRP北京オリンピック2008予報実証/研究開発プロジェクト (その3 2008年本実験に向けて)
- B108 國井 勝 (気象研) WWRP北京オリンピック2008予報実証/研究開発プロジェクト (メソ解析の適用と降水同化)
- B109 中村 誠臣 (気象研) 解像度を変えたNHMによる夏季関東域での再現実験. その2

大会第1日 [5月18日 (日)] 10:00~11:30 一般口頭発表**C 会場****微量気体**

座長 : 内野 修 (環境研)

- C101 村山 昌平 (産総研) 飛騨高山サイトにおける大気中ラドン濃度の連続観測
- C102 近藤 裕昭 (産総研) 気象研タワー観測におけるRn, CO, CO₂濃度日変化の数値シミュレーション
- C103 石戸谷 重之 (東北大院理) 仙台市青葉山、スバルパール諸島ニーオールスン、および南極昭和基地における大気中酸素濃度の変動から見積もられた全球炭素収支
- C104 町田 敏暢 (環境研) 民間航空機で観測されたCO₂濃度の高度別季節変動
- C105 澤 庸介 (気象研) 定期旅客便CO₂観測により推察された対流圏から下部成層圏への輸送経路
- C106 水田 亮 (AESTO) パッシブトレーサーを用いた20km全球モデルでの中緯度対流圏界面物質交換
- C107 内野 修 (地球環境研究センター) 温室効果ガス観測技術衛星 (GOSAT) の検証計画

大会第1日 [5月18日 (日)] 10:00~11:30 一般口頭発表

D 会場

大気力学I

座長：松枝 未遠 (AESTO/気象研)

- D101 佐藤 正樹 (東大気候システム) 放射対流平衡問題における雲面積の雲物理依存性
- D102 杉山 昌広 (東大IR3S) ウォーム・プール上の水蒸気モード
- D103 内藤 成規 (Weather and Marine) GMSによる対流圏準2年変動の解析
- D104 土屋 主税 (東大院理) 長期地上気象観測データに基づく広帯域スペクトルの普遍性
- D105 前島 康光 (東大海洋研) 前線不安定によるメソスケール擾乱の非線形発展 - 成分波間の相互作用について-
- D106 風本 圭佑 (京大院理) 初冬におけるブロッキングと成層圏突然昇温との関連に関する解析
- D107 松枝 未遠 (AESTO/気象研究所) 全球大気モデルによるブロッキング現象の再現性・解像度依存性および将来変化
- D108 田中 博 (筑波大計算科学) 大気長周期変動に見られるPNAパターンの力学的成因に関する解析的および理論的研究
- D109 森 正人 (北大院地球環境) 強制された順圧応答におけるStationary Nonlinearityの役割 -PNAの理解に向けて-

大会第1日 [5月18日 (日)] 13:30~17:00 専門分科会

B 会場

「衛星による降水観測：TRMM 10周年を迎えて」

座長：高橋 暢宏 (NICT)

- *B151 沖 理子 (JAXA) 熱帯降雨観測衛星 (TRMM) の概要と10年間の成果
- B152 佐藤 晋介 (NICT) 東南アジアにおける衛星による陸上降雨量の推定精度
- B153 彦坂 健太 (東大気候システム) TRMM衛星データを用いた梅雨期における降雨特性の統計的解析
- B154 増永 浩彦 (名大地球水循環) TRMMおよびCloudSat衛星データを用いた全球雲解像モデル検証
- B155 永戸 久喜 (気象研) 衛星搭載マイクロ波放射計による降水リモートセンシングへの適用に向けた雲解像モデルの降水粒子予測特性の検証と改善の検討
- *B156 清水 収司 (JAXA/EORC) TRMM軌道高度変更による降水強度推定への影響評価
- B157 中澤 哲夫 (気象研) TRMM降水変動 高度変更の影響か年々変動か?
- B158 古澤 文江 (HyARC) TRMM PRの降水推定に基づく降水特性の年々変動
- B159 森本 健志 (阪大院工) TRMM LIS/PR による雷嵐および降雨観測で得られた知見

座長：沖 理子 (JAXA/EORC)

- *B160 牛尾 知雄 (阪大院工) カルマンフィルタを用いた衛星搭載マイクロ波放射計及び赤外放射計データによる高分解能全球降水マップ (GSMaP_MVK) の作成と評価
- B161 青梨 和正 (気象研) マイクロ波放射計散乱シグナルからの降水強度リトリーバル：現状と改良の方向性について
- B162 重 尚一 (大阪府大院工) TRMM PR データからの潜熱加熱プロファイルのスペクトル推定法：公開β版の現状と今後の課題
- B163 高藪 縁 (東大気候システム) TRMM SLH β版データによる潜熱加熱分布解析
- *B164 古津 年章 (島根大総理工) TRMM降雨レーダによる地球規模の雨滴粒径分布マッピング
- B165 高橋 暢宏 (NICT) 降雨の非一様性によるTRMM/PRの降水過小評価の可能性について
- B166 瀬戸 心太 (東大生産研) TMI陸上降雨強度推定アルゴリズムの比較評価—低周波数観測の役割に着目して—
- B167 古澤 文江 (HyARC) TRMM観測と長期再解析JRA-25データによる無降水域の地表面射出率の特性
- B168 木島 梨沙子 (京大防災研) TRMM/TMIによる低頻度衛星観測情報を用いた時間相関長さのグローバル推定

※*の講演は持ち時間15分、その他の講演の持ち時間は10分です。

大会第1日 [5月18日 (日)] 13:30~17:00 専門分科会

C 会場

「大気リモートセンシングデータ解析技術における工夫」

座長：今須 良一（東大気候システム）

- C151 齋藤 尚子（東大気候システム） MAP法リトリーブによるCO₂濃度推定精度向上のための工夫 -チャンネル選択とリトリーブ値のa prioriへの依存性の考察-
- C152 青木 忠生（環境研） Optimization of GOSAT Atmospheric VMR Profile Retrieval: Solving a Non-Linear Inverse Problem with Empirical Orthogonal Functions
- C153 吉田 幸生（環境研） GOSAT TANSO-FTS-SWIR BBM による模擬観測実験~ 短波長赤外域の地表面散乱光観測による二酸化炭素気柱量の導出 ~
- C154 太田 芳文（環境研） Discrete-Ordinate/Adding 法による偏光放射伝達計算モデルの開発

座長：杉本 伸夫（環境研）

- C155 青木 一真（富山大院理工） 太陽放射観測による光学的特性の現状と今後
- C156 長澤 親生（首都大システムデザイン） 1.6 μ m DIALによるCO₂垂直分布観測
- C157 石井 昌憲（NICT） CO₂濃度計測用コヒーレント差分吸収ライダーの開発と展望
- C158 平野 嘉仁（三菱電機 情報総研） 衛星搭載CO₂モニタ用1.6 μ m帯CW変調DIALに関する検討

座長：笠井 康子（NICT）

- C159 大山 博史（神戸大院自然） つくば高分解能FTSで観測された1.6 μ m帯CO₂吸収スペクトルの解析: フラウンホーファー線の処理および装置関数の決定方法
- C160 長浜 智生（名大STE研） 名大STE研母子里・陸別FTIRによる成層圏・対流圏微量分子のモニタリング観測
- C161 笠井 康子（NICT） アラスカ州ポーカーフラットに設置したFTIRによる温暖化物質/汚染物質の観測
- C162 植松 明久（NICT） 衛星搭載雲レーダによる雲・降水のドップラー速度観測
- C163 堀之内 武（京大生存研） COSMIC GPS掩蔽データからのSwathデータの作成と初期結果

総合討論

※各講演の持ち時間は15分です。

大会第1日 [5月18日 (日)] 13:30~17:00 専門分科会**D 会場****「季節予報を定量的に利用する」**

座長 : 大西 道隆 (大阪ガス)

- D151 藤井 聡 (気象予報士会) 1か月予報利活用への模索
D152 中山 秀晃 (気象予報士会) 国内旅行における一ヶ月予報及び週間予報の利活用について
D153 井上 葉子 (気象予報士会) 季節予報と環境家計簿

座長 : 登内 道彦 (気象業務支援センター)

- D154 仲江川 敏之 (気象研) 早明浦ダム流域における渇水対策のための季節予報の利用可能性
D155 若浦 雅嗣 (株) アークエンジン) ベイズの定理を用いた予報信頼性評価について
D156 伊藤 明 (気象庁気候情報) 定量的利用を想定した1か月予報の評価

総合討論

座長 : 渡辺 典昭 (気象庁気候情報)

※各講演の持ち時間は20分です。

大会第2日 [5月19日 (月)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システムII

座長 : 楠 昌司 (気象研)

- A201 児嶋 恵 (東大気候システム) 植生フィードバックを含む大規模山岳効果によるモンスーンへの影響
- A202 馬淵 和雄 (気象研) アジア域熱帯林減少の地域的な水・炭素収支への影響に関する新たな数値実験について
- A203 野田 暁 (FRCGC) 全球非静力学モデルNICAMにおける下層雲の振舞い -2004年6月~8月のケース-
- A204 千喜良 稔 (FRCGC) エントレインメント率が環境場に依存する積雲対流スキームの開発その2 : GCM実験
- A205 渡部 雅浩 (東大気候システム) MIROCとCReSSを用いたマルチスケールモデリング (1)
- A206 荒川 隆 (RIST) 21世紀気候変動予測革新プログラムにおけるカップラー開発
- A207 楠 昌司 (気象研) 20km格子全球大気モデルによる地球温暖化時の梅雨変化予測
- A208 村上 裕之 (AESTO/気象研) 20km格子全球大気モデルによる地球温暖化時の熱帯低気圧の構造変化
- A209 上口 賢治 (気象研) 日降水諸統計量の水平解像度依存性について
- A210 森 厚 (桜美林大) 中学校教科書にみる温室効果の記述について
- A211 槌田 敦 CO₂温暖化説は間違っている (2) [OHP使用予定]

大会第2日 [5月19日 (月)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

降水システムI

座長 : 山内 洋 (気象研)

- B201 加藤 輝之 (気象研) 2006年11月7日に発生した北海道佐呂間竜巻の雲解像モデルによる再現
- B202 益子 渉 (気象研) 2006年台風第13号に伴う竜巻の数値シミュレーション-ミニスーパーセルに伴う竜巻の発生機構-
- B203 佐々 浩司 (高知大理) スーパーセル竜巻の模擬実験
- B204 小林 文明 (防大地球) 2007年5月31日東京湾で発生した竜巻のライフサイクル
- B205 楠 研一 (気象研) 庄内平野に突風をもたらした気象じょう乱-事例解析080108 (序報) -
- B206 猪上 華子 (気象研) 庄内平野に突風をもたらした気象じょう乱-2007年12月2日にXバンドドップラーレーダーで観測されたmisocycloneの特徴-
- B207 鈴木 博人 (JR東日本研究開発センター防災研究所) 気象レーダーの観測値を用いた冬期の寒冷前線に伴う突風の予測について
- B208 山内 洋 (気象研) 2008年1月1日羽田空港周辺で発生したドライ・ダウンバースト
- B209 佐々木 啓壮 (気象大) デュアルドップラーレーダーデータによる2007年4月28日の寒冷低気圧に伴う降水帯の運動学的構造の解析
- B210 用具 敏郎 (気象庁予報) 2006年7月18日から24日にかけて九州中・南部で発生した記録的豪雨その3-鹿児島/市来のウィンドプロファイラ (WPR) で観測された下層ジェット (LLJ) と豪雨との関係 -
- B211 天野 智裕 (名大地球水循環) 南西諸島で観測された梅雨前線に斜交する降水セル列の構造
- B212 田中 創 (日本気象協会) WRF-3DVARを用いたGPS可降水量の連続同化実験
- B213 川畑 拓矢 (気象研) NHM-4DVARによる首都圏豪雨データ同化実験

大会第2日 [5月19日 (月)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

エアロゾル

座長：竹村 俊彦（九大応力研）

- C201 青木 輝夫（気象研） 札幌における4冬期間の積雪中OC、EC、ダスト濃度変動
- C202 張 代州（熊本県立大環境共生） 都市大気中のスス粒子に付着した揮発性物質
- C203 大島 長（東大院理） ブラックカーボンの混合状態の変化とそのエアロゾル光学特性・雲凝結核特性への影響 —エアロゾルの混合状態を表現した新しいモデルの開発—
- C204 西田 千春（名大院環境） 乗鞍岳において観測された新粒子生成イベント
- C205 長田 和雄（名大院環境） 立山山域におけるダスト・イオン成分の標高別沈着量
- C206 上田 紗也子（名大院環境） 水透析法を用いた個別粒子解析による雲粒間エアロゾル粒子の混合状態
- C207 直江 寛明（気象研） 気液平衡を仮定した液相化学反応モデルの開発
- C208 梶野 瑞王（東大先端研） 領域規模エアロゾル化学輸送モデルの開発と評価
- C209 松井 仁志（東大院理） 3次元モデルを用いた北京周辺域のエアロゾルの変動過程に関する研究
- C210 五藤 大輔（東大気候システム） GCMと地上・衛星観測を用いた海洋上清浄大気におけるエアロゾルの特性の考察
- C211 弓本 桂也（九大応力研） アンサンブルカルマンフィルタの全球エアロゾル輸送モデルへの導入
- C212 竹村 俊彦（九大応力研） 最終氷期極大期におけるエアロゾルの分布および気候影響に関するシミュレーション

大会第2日 [5月19日 (月)] 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

大気力学 I I

座長 : 山本 勝 (九大応力研)

- D201 小郷原 一智 (京大院理) 火星primitive modelにおけるCO₂凝結過程が風速分布に与える影響
- D202 高橋 芳幸 (神戸大院理) 火星大気大循環モデルで表現されるダスト巻き上げ量の解像度依存性
- D203 高木 征弘 (東大院理) 灰色大気モデルを用いた金星大気鉛直温度分布の数値計算
- D204 城戸 敦誉 (九大院総理工) 3次元加熱を与えた際の金星大気大循環における多重平衡解
- D205 山本 勝 (九大応力研) 地球型惑星の中層大気における超回転と逆回転について
- D206 松島 和宏 (東海大地環) 半球規模回転水槽実験における西進シグナルの有意性
- D207 横嶋 悟 (東海大物理) 閉ループ内熱対流数値実験 ~FDMとFEMを用いて~
- D208 齊藤 直彬 (京大院理) 水平シア流中の熱対流からの波パターンについての考察
- D209 檜尾 守昭 (気象大) 飽和大気の力学理論に関する一手法
- D210 井上 誠 (東大気候システム) 北半球秋季における成層圏QBOと対流圏循環との関係
- D211 小寺 邦彦 (名大院・環境) 上部成層圏でのプラネタリー波の反射とその対流圏への影響 : 2007年3月の突然昇温時の事例
- D212 堀之内 武 (京大生存研) COSMIC GPS掩蔽データによる大気重力波の鉛直断面の解析

大会第3日 [5月20日 (火)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システムIII

座長 : 遊馬 芳雄 (琉球大理)

- A301 遊馬 芳雄 (琉球大理) 東シベリアNo.31氷河周辺の水蒸気収支解析
- A302 遊馬 芳雄 (琉球大理) QuikScat海上風データから見たカムチャッカ半島東岸沿いの強風帯
- A303 齋藤 冬樹 (FRCGC, JAMSTEC) グリーンランド氷床の数値実験における縁辺部の数値スキームの改良の効果
- A304 本吉 弘岐 (総研大) MODISデータによる東南極氷床域における積雪粒径の抽出
- A305 朽木 勝幸 (気象研) 南極域のリモートセンシングに対するサスツルギの効果
- A306 岡田 裕毅 (東大気候システム) 氷期間氷期サイクルにおける北半球氷床の氷床-固体地球相互作用に関する研究
- A307 松尾 勇気 (東大気候システム) 2次元氷床力学モデルを用いた氷床システム内在不安定性の検証
- A308 吉森 正和 (東大気候システム) 二酸化炭素倍増実験と最終氷期極大期実験における気候フィードバック解析
- A309 倉橋 貴純 (FRCGC) 海洋の物理的変化が及ぼす大気二酸化炭素濃度への影響: 氷期-間氷期サイクル
- A310 中塚 武 (北大低温研) 屋久杉年輪の酸素・炭素同位体比に記録された過去300年間の水循環プロセスの変化
- A311 栗田 直幸 (IORGC) アジアモンスーン域の降水の同位体分布と水循環の関係
- A312 山下 陽介 (東大気候システム) 太陽活動、QBOの位相に関連した北極域の変動、鉛直構造
- A313 黒田 友二 (気象研) 太陽活動の北大西洋振動変調に及ぼすオゾンの役割

大会第3日 [5月20日 (火)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

降水システムII

座長 : 山口 宗彦 (気象庁数値予報)

- B301 北島 尚子 (気象研) 週間アンサンブル予報における台風進路に対する環境場の影響
- B302 小森 拓也 (気象庁数値予報) 台風予報特性に対する気象庁全球数値予報モデル高解像度化のインパクト
- B303 松枝 未遠 (AESTO/気象研究所) CMC/ECMWF/JMA/NCEP/UKMO現業アンサンブル予報値を用いたマルチセンターグラウンドアンサンブルの構築とその精度評価
- B304 山口 宗彦 (気象庁 数値予報) 気象庁台風アンサンブル予報システム
- B305 山口 宗彦 (気象庁 数値予報) T-PARCにおける台風機動観測と感度解析
- B306 別所 康太郎 (気象研) 8年間の散乱計観測による台風域内の海上風分布の統計解析
- B307 大内 和良 (FRCGC) 全球雲解像モデルNICAMにおけるMJOサイクル、スーパークラスターおよび台風の発生 -2004年6~8月のケース (序報) -
- B308 山岬 正紀 (FRCGC) メソ対流解像モデル-非静力学モデル版-の開発と数値実験
- B309 山岬 正紀 (FRCGC) バンド状対流系に対する西風の鉛直シアーと潜在不安定の南北非対称の効果
- B310 杉本 志織 (筑波大院生命環境) 夏季モンスーン期にチベット高原上で発生するメソ対流系に関する解析
- B311 上野 健一 (筑波大院生命環境) チベット高原中央部で発生する夜雨の要因
- B312 柳野 健 (MRI) 渡良瀬川の流出解析におけるダム調節効果について

大会第3日 [5月20日 (火)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

観測手法

座長 : 岡本 創 (東北大院理)

- C301 門倉 克矩 (Radiometrics) 第3世代 マイクロ波放射計の開発
- C302 古本 淳一 (京大生存研) 周波数領域干渉計映像法を用いたRASS 観測による高鉛直分解能気温観測
- C303 大東 雄二 (三菱電機特機システム) FMCW型Ka-bandレーダの開発
- C304 妻鹿 友昭 (阪大院工) Ku帯広帯域レーダを用いた降雨の偏波観測
- C305 山田 芳則 (気象大) ハイブリッド法によるドップラー速度データの品質管理
- C306 山田 芳則 (気象大) MUSCAT 法による風の場の再現特性
- C307 岩淵 弘信 (FRCGC) 光学観測のための放射伝達モデルJACOSPAR
- C308 増田 一彦 (気象研) 能動・受動センサの複合利用による降水域での氷晶雲の特徴抽出
- C309 佐藤 可織 (東北大院理) CloudSatデータを用いた雲微物理特性の解析及びその抽出精度の検証
- C310 萩原 雄一郎 (東北大院理) CloudSat/CALIPSO/MODISの複合利用による下層雲の物理特性の研究
- C311 岡本 創 (東北大理) CloudSAT/CALIPSOによる氷粒子微物理特性の解析
- C312 大野 裕一 (NICT) CloudSat雲レーダのSPIDER観測による検証 (3)
- C313 清水 厚 (環境研) 航空機搭載・人工衛星搭載・地上ネットワークライダーによるエアロゾル3次元構造の同期観測

大会第3日 [5月20日 (火)] 9:30~11:30 一般口頭発表**D 会場****大気境界層I**

座長 : 竹見 哲也 (京大防災研)

- D301 川島 茂人 (京大院農) チベット高原における冬期気温のトランゼクト解析
- D302 澤 理紗 (京大院農) チベット高原における山地斜面降水量のトランゼクト解析
- D303 甲斐 憲次 (名大院環境) 風伝おろし発生機構に関する観測的研究
- D304 大西 将徳 (京大院人間環境) 海陸風のレジームシフトと線形解析—海陸風と慣性周期の関係—
- D305 竹見 哲也 (京大防災研) 高分解能標高データを用いた局所風の数值シミュレーション
- D306 山田 哲司 (YSA) 風洞、建物、地形スケールの気流・拡散シミュレーションモデル
- D307 山下 和也 (北大院 環境科学) 大気境界層に普遍的に存在するストリーク構造の特性
- D308 岩井 宏徳 (NICT) 海風層中に観測された水平ロール渦とストリーク
- D309 楠 研一 (気象研) 空港気象ドップラーレーダーを用いた非降水エコー出現特性の調査 (序報)
- D310 稲垣 厚至 (東工大) 接地境界層スケールと混合層スケール乱流変動の分離
- D311 瀧本 浩史 (東工大院理工) 屋外模型都市におけるPIVを用いた乱流計測

大会第4日 [5月21日 (水)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システムIV

座長：加藤 内蔵進（岡山大教育）

- A401 白山 洋平（気象大） 日本付近における雷活動と気象要素との関係に関する統計解析
- A402 加藤 内蔵進（岡山大・教育・理科） 北陸における1987年頃以降の多雪日の減少に関する総観気候学的研究
- A403 酢谷 真巳（気象大） 温暖化による長期変化傾向を考慮した気温極値解析
- A404 谷貝 勇（気象大） 地球温暖化の影響を受ける4月の北冷西暑について
- A405 藤部 文昭（気象研） 日本における極端豪雨の再現期間の評価
- A406 林 麻利子（京大院理） MJOがPNAパターンの予測可能性に及ぼす影響

座長：長谷川 寛（気象庁気候情報）

- A407 原田 やよい（気象庁気候情報） 平成18年7月豪雨をもたらした環境場としての循環場の解析（第2報）
- A408 永野 良紀（日大院地球情報） チベット高気圧の形状と日本の気温との関係—シルクロードパターンを中心とした1982年および1994年7月の事例解析—
- A409 長谷川 寛（気象庁気候情報） 2007年夏の特徴の解析～盛夏期の高温の要因など～
- A410 山根 悠介（京大次世代ユニット） バングラデシュにおけるプレモンスーン期シビアローカルストーム発生日の総観場について
- A411 初塚 大輔（名大院環境） バングラデシュにおけるモンスーン降水量の季節内変動と年々変動
- A412 黄 智勇（名大院 環境） Wavelet based fractal analysis of El Nino/La Nina episodes

大会第4日 [5月21日 (水)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

雲物理

座長：青梨 和正（気象研）

- B401 村上 正隆（気象研） 物理的予測因子を用いたシーディング効果判定法の試みー2Dシーディング数値実験の結果を用いてー
- B402 橋本 明弘（気象研） 雲シーディングの効果と広域影響評価ー3次元雲解像モデルを用いた人工降雪実験ー
- B403 加藤 輝之（気象研） 暖候期での人工降雨のための有効雲の出現頻度分布調査 - 水平分解能1km雲解像モデルの結果から -
- B404 山下 克也（気象研） MRI雲生成チェンバーを用いた吸湿性粒子シーディング実験（その2）
- B405 越田 智喜（いであ株） 人工降雨によって渇水被害軽減の可能性がある雲の出現状況
- B406 久芳 奈遠美（FRCGC） 暖かい雨に対する凝結核散布の効果に関する数値実験（2）
- B407 中井 専人（防災科研・雪氷） 雪雲上陸時の降水強度変化とその再現性
- B408 佐藤 可織（東北大院理） 多波長ドップラーレーダを用いた降雪／降雨シーンにおける微物理特性抽出法に関する研究
- B409 青梨 和正（気象研） 非静力雲解像モデル物理量のアンサンブル予報誤差分布と共分散
- B410 牛山 朋来（JAMSTEC/IORGC） パラオで観測された雨滴粒径分布の季節変化
- B411 中島 孝（東海大） 全球雲特性観測から得られる雲成長過程に関する情報について（その2）
- B412 山尾 理恵子（防大地球） 放射霧の成長速度
- B413 一柳 錦平（JAMSTEC） インドネシア・スマトラ島で観測された雲プロセスが降水同位体比に与える影響

大会第4日 [5月21日 (水)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

熱帯大気

座長 : 杉 正人 (気象研)

- C401 安永 数明 (IORGC) MISMO期間中に観測された3-4日周期の変動
- C402 安永 数明 (IORGC) MISMO期間中に観測されたMJOの全球雲解像モデルNICAMによる再現実験
- C403 本山 龍也 (気象庁気候情報) 気象庁1か月アンサンブル予報モデルによるMJOに伴う鉛直加熱率とTRMM、JRA-25との比較
- C404 那須野 智江 (FRCGC) 全球非静力学モデルを用いた2006年12月MJO再現実験 第2報 --- 対流の階層構造と熱帯波動擾乱の役割 ---
- C405 木津 昭一 (東北大院理) 海面水温の長期トレンドに伴うマッデン・ジュリアン振動の強度変動
- C406 佐藤 友徳 (東大気候システム) 全球雲解像モデルNICAMによる熱帯域の降水日変化と解像度依存性
- C407 伍 培明 (IORGC) The Impact of Orographically-induced Gravity Wave on the Diurnal Cycle of Rainfall over Southeast Kalimantan Island

座長 : 木津 昭一 (東北大院理)

- C408 上野 充 (気象研) 数値モデルで得られた台風中心軸の傾斜と気温変化 (続報)
- C409 柳瀬 亘 (東大気候システム) 全球高解像モデルNICAMによる台風0621号の発生のシミュレーション
- C410 中野 藤之 (阪大院工) 相当温位を用いた台風における雷放電発生条件
- C411 杉 正人 (気象研) 高解像度再解析データJRA-25を用いた台風の発生過程の解析
- C412 正木 岳志 (京大防災研) JRA-25再解析データに基づくHadley循環の長期変化に関する研究
- C413 大塚 成徳 (京大院理) 熱帯対流圏中層に見られる湿潤層状構造の時空間分布に関する数値実験

大会第4日 [5月21日 (水)] 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

大気境界層II

座長 : 神田 学 (東工大院理工)

- D401 大和 広明 (首都大都市環境) 首都圏の夏季日中における高温域の形成要因
- D402 高橋 一之 (首都大都市環境) 夏季における東京都区部の風系とヒートアイランド現象との関係 (第2報) —ヒートアイランドに伴う静穏域の存在—
- D403 三上 岳彦 (首都大) 皇居のクールアイランド効果について (その1) —皇居気象観測の全体像—
- D404 泉 岳樹 (首都大都市環境) 皇居のクールアイランド効果について (その2) —2006年, 2007年8月の観測結果—
- D405 岡 暁子 (首都大都市環境) 皇居のクールアイランド効果について (その3) —皇居周辺への影響範囲とにじみ出し—
- D406 三上 岳彦 (首都大) 都市内緑地のクールアイランド効果とその規模別評価

相互作用

座長 : 島田 照久 (東北大院理)

- D407 山内 明子 (伊豆海洋研) 局所的フラクタル次元を用いた層別海水温の変動解析—温度勾配による冬の寒暖予測法について—
- D408 三瓶 岳昭 (ハワイ大IPRC) 衛星観測データに基づく海上の強風発生頻度の分布
- D409 広瀬 直毅 (九大応力研) 日本周辺の冬季気候に対する対馬暖流の影響
- D410 島田 照久 (東北大院理 大気海洋センター) 日本海上の冬季季節風の局地的分布
- D411 小田 僚子 (東工大院理工) 東京湾における海表面温度および海上気温変動の実態

大会第4日 [5月21日 (水)] 13:30~17:00 専門分科会

A 会場

「南極大型大気レーダーを軸とした極域大気研究の可能性」

座長 : 佐藤 薫 (東大院理)

- A451 佐藤 薫(東大院理) 南極昭和基地大型大気レーダー計画 Program of the Antarctic Syowa MST/IS Radar (PANSY)
- *A452 里村 雄彦 (京大院理) カタバ風ジャンプに関する数値実験 (2)
- *A453 藤吉 康志 (北大低温研) ドップラーライダーを用いた南極の対流圏中・下層大気の観測計画
- *A454 近藤 豊 (東大先端研) 南極・北極域へのエアロゾルの輸送
- *A455 神沢 博 (名大院環境) 南極昭和基地大型大気レーダー (PANSY) に期待される大気力学の観測
- A456 館野 聡 (東大院理) 高解像度気候モデルを用いた中層大気の大気重力波の研究
- A457 岡本 功太 (東大院理) 自発的調節課程による重力波発生源の研究

座長 : 富川 喜弘 (極地研)

- A458 山内 恭 (極地研) 極域における成層圏-対流圏交換の諸相
- *A459 秋吉 英治 (環境研) 化学気候モデルを用いた極域大気の研究
- A460 中島 英彰 (環境研) PSC and Ozone Observations at Syowa Station, Antarctica during 2007 Winter
- A461 富川 喜弘 (極地研) オゾン層状構造と南極オゾンホール内への質量輸送 II
- A462 木下 武也 (東大院理) 3次元残差循環を用いた物質輸送の研究
- *A463 廣岡 俊彦 (九大院理) 成層圏突然昇温に伴う子午面循環について (II)

座長 : 堤 雅基 (極地研)

- *A464 菅原 敏 (宮城教育大) 極域成層圏大気の微量成分観測と大気の平均年代
- A465 宮崎 和幸 (FRCGC) 南半球極渦周辺の平均鉛直運動
- A466 渡辺 真吾 (FRCGC) T213L256中層大気大循環モデルを用いた冬季高緯度中間圏4日波の研究
- *A467 中村 卓司 (京大生存研) 大型VHFレーダーによる極域中間圏観測

総合討論

座長 : 佐藤 薫 (東大院理)

※*の講演は招待講演で持ち時間13分, その他の講演の持ち時間は10分です。

大会第4日 [5月21日 (水)] 13:30～17:00 専門分科会

B 会場

「CMIP3マルチ気候モデルにおける大気海洋諸現象の再現性比較」

座長：高荻 縁（東大気候システム）

- B451 鬼頭 昭雄（気象研） WCRP CMIP3マルチモデルデータによる地上気温の年々変動と日々変動の将来変化
- B452 小坂 洋介（東大院理） CMIP3 モデルにおける夏季東アジア循環変動の再現性
- B453 堀 正岳（名大院環境） 地球温暖化時における冬季東アジアモンスーンの変調～CMIP3 マルチモデルアンサンブルを用いて～
- B454 井上 知栄（筑波大院生命環境） CMIP3マルチ気候モデルにおけるアジアモンスーンの再現性比較
- B455 横井 覚（東大気候システム） 西太平洋域における台風発生数のマルチモデル比較
- B456 鈴木 恒明（FRCGC） 熱帯収束帯のマルチモデル比較（第1報）
- B457 佐藤 尚毅（IORGC） IPCC AR4気候モデルで再現されたMJOの構造
- B458 清木 亜矢子（IORGC） IPCC AR4モデルにおける西風バースト発生状況とENSOとの関係

座長：中村 尚（東大院理）

- B459 對馬 洋子（JAMSTEC FRCGC） 季節変化における雲の放射フィードバックに関するモデル相互比較
- B460 市川 裕樹（名大院環境） CMIP3マルチモデルにおける熱帯大規模上昇流域での降雨・上層雲の再現性
- B461 新村 周平（名大院環境） 降水観測データによる気候モデル降水量の再現性の評価（その2）
- B462 二宮 洗三（FRCGC） 梅雨前線帯および北太平洋亜熱帯高気圧周辺の6月降水分布に関するモデル相互比較【OHP使用予定】
- B463 楠 昌司（気象研） CMIP3大気海洋結合モデルによる梅雨期の降水強度の再現性
- B464 尾瀬 智昭（気象研） エルニーニョに伴う西太平洋降水変動のCMIP3モデルによる再現性
- B465 安田 珠幾（気象研） WCRP CMIP3マルチモデルデータにおける熱帯太平洋表層貯熱量変動とENSOの関係
- B466 大島 和裕（北大地球環境） CMIP3における北太平洋10年規模変動の再現性
- B467 行本 誠史（気象研） CMIP3モデルにおける北半球環状モード（NAM）の再現性

※各講演の持ち時間は12分です。

大会第4日 [5月21日 (水)] 13:30~17:00 専門分科会

C 会場

「広域スケールの陸域生物圏研究に関する最新の動向」

座長：馬淵 和雄（気象研）

- *C451 大谷 義一（森林総研） 陸域生態系の炭素収支観測の現状と課題
- C452 吉田 龍平（東北大院理） Penman-Monteith式を用いた森林からの蒸散量を規定する要因に関する研究
- C453 鈴木 和良（IORGC） 北海道北部の多雪森林地域における領域スケールの積雪分布と水・熱収支
- C454 吉野 純（岐阜大院工） SATECOモデルによる大八賀川流域の高解像度水・熱・炭素収支評価
- C455 佐藤 永（FRCGC） 動的全球植生モデルSEIBによる、東シベリアの植生・炭素・水循環の再現と予測

座長：伊藤 昭彦（環境研/FRCGC）

- *C456 市井 和仁（福島大 共生システム理工） 地上観測・衛星データを利用した陸域生物圏モデル向上への試み
- C457 小林 秀樹（FRCGC） グローバルLAIデータセット作成の現状とその相互比較
- C458 伊藤 彰記（FRCGC） 気温上昇に伴うオゾン濃度変化の全球化学輸送モデル解析：大気化学、植物起源発生源、および有機硝酸塩の果たす役割
- C459 大石 龍太（東大気候システム） 大気大循環モデルの陸面スキームにおける葉面積指数予報の試み

総合討論

コメンテーター：渡辺 力（北大低温研）

※*の講演は特別講演で持ち時間20分、その他の講演の持ち時間は15分です。

大会第4日 [5月21日 (水)] 13:30~17:00 専門分科会

D 会場

「持続可能で安全な都市環境への気象研究の役割」

座長：亀卦川 幸浩（明星大）

- D451 森山 正和（神戸大学） 現存気候と潜在自然気候との比較による都市ヒートアイランド解析
- D452 持田 灯（東北大院工） ヒートアイランドと都市空間の換気・通風-風工学の立場から-
- D453 玄地 裕（産総研） ヒートアイランド現象によりもたらされる環境影響の定量化
- D454 足永 靖信（建築研） 都市再生とヒートアイランド対策
- D455 岩男 弘毅（産総研） 全球都市分布データの現状とGEO Gridを活用した全球都市分布データ作成

座長：森脇 亮（愛媛大）

- D456 菅原 広史（防衛大地球海洋） 都市キャノピーの熱輸送パラメータ
- D457 日下 博幸（筑波大計算科学） 地球温暖化時のヒートアイランド（猛暑）予測研究と都市降水シミュレーション研究の現状と課題
- D458 須田 一人（気象庁気候情報） 気象庁におけるヒートアイランド監視業務（都市気候モデルによる解析を中心に）
- D459 一ノ瀬 俊明（国環研/名大） 日本の都市気候・都市熱環境研究のアジア・世界への貢献
- D460 神田 学（東工大） 横断研究領域としての都市気象とIAUCの動向

総合討論

座長：近藤 裕昭（産総研）

※講演は全て招待講演で、各講演の持ち時間は16分です。

大会第1日 [5月18日 (日)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

[キーワード: 降水システム・大気境界層・気象予報・観測手法・
気候システム・環境気象・熱帯大気・気象教育 他]

- P101 小松 麻美 (気象協会) 気象教育教材の開発と実践 その2 ~南極の立体天気図を用いた高校での授業について~
- P102 脇水 健次 (九大院農) 2008年1月17日長崎県北松浦半島沖で実施した液体炭酸を用いた人工降雨実験
- P103 中里 真久 (気象研) Xバンド及びKaバンドレーダーを用いたシーディング有効雲の観測
- P104 中川 清隆 (立正大地球環境科学) 2007年夏季における埼玉県熊谷市街地内外に立地するビル屋上気温と地上気温の短時間間隔連続観測
- P105 カスティリオ クリスティーナ (東工大院理工) Large Eddy Simulationを用いた都市建物群近傍における乱流輸送過程の把握
- P106 栗田 進 (気象研) 都市ビル群の風下領域における境界層の2層構造
- P107 鈴木 靖 (気象協会) 気温と湿度から算出する熱中症指標の検証
- P108 福岡 義隆 (立正大地球環境) 電車乗降に伴う急激な温湿度変化に関する研究
- P109 上野 健一 (筑波大院生命環境) 千葉マリスタジアム内に特徴的な風系と強風の要因
- P110 橋本 孔佑 ((有) 気象環境計測) デジタルカメラを使用した野外用PIV装置
- P111 丸山 綾子 (東工大院理工) 屋外模型都市における内部・外部スケールの乱流構造特性
- P112 渡来 靖 (立正大地球環境科学) 関東平野中央部における2007年8月猛暑の予備の数値実験
- P113 澤田 岳彦 (富山大理) 北海道の夏季静穏日におけるGPS可降水量の日変化
- P114 根本 由紀子 (気象予報士会) 東北太平洋側の夏の低温日の特徴
- P115 池上 茉莉花 (東北大院理) 北海道南西部における地峡風の再現実験
- P116 石井 昌憲 (NICT) コヒーレントドップラーライダーによる清川ダシ観測
- P117 片岡 文恵 (RESTEC) 2004年台風23号による広戸風発生機構の時空間的解析と倒木被害について
- P118 大塚 清敏 (大林組技研) 2004年台風23号広戸風発生時の津山盆地内の強風被害と風速・乱れの分布に関する考察
- P119 高橋 靖 (防衛大地球海洋) 三沢飛行場における層雲の雲底高度について
- P120 奥田 智洋 (防衛大地球海洋) 霧発生中における視程急変と鉛直風の関係
- P121 佐野 哲也 (名大地球水循環) ドップラーレーダーで観測された発達する台風に伴う降水帯の内部構造
- P122 荒金 匠 (東大気候システム) 2006年10月台風0616の中心ジャンプ
- P123 星野 俊介 (気象研) 1987年以降の気象庁とJTWCのドボラック法による台風強度推定の比較
- P124 村上 裕之 (AESTO/気象研) 60km格子全球大気モデルによる熱帯低気圧の再現性について
- P125 高橋 清利 (気象研) JRA-25・JCDAS におけるインド域の夏季降水再現性
- P126 加藤 敦 (防災科研) マルチパラメータレーダを用いたナウキャスト (その2)
- P127 岡本 幸三 (気象庁数値予報) ハイパースペクトル赤外サウンダAIRSの輝度温度の同化 (2) -雲頂高度推定の改良とCloudSat/CPRによる検証-
- P128 斉藤 和雄 (気象研) 気象庁非静力学モデルによるダウンスケールアンサンブルとBGM法の開発 (その3 境界値摂動の導入)
- P129 林 修吾 (気象研) 東南アジア域および日本域におけるNHMとWRFによる予報結果のモデル間相互比較
- P130 太田 洋一郎 (気象大) ハイブリッド $\sigma-\theta$ 座標系全球スペクトルモデルの開発と実験

- P131 村田 昭彦 (気象研) 積雲対流パラメタリゼーションにおける雲量の影響 (第二報)
- P132 三上 彩 (京大生存研) 400MHz帯ウィンドプロファイラ・RASSを用いた沖縄亜熱帯域の対流雲の観測
- P133 山本 恵子 (京大院理) ラオスの気象レーダーを用いたビエンチャン近郊の降水特性について- 速報 -
- P134 高谷 美正 (気象研) 2005年5月24日の降電を伴った嵐の一生
- P135 山下 大地 (筑波大) 竜巻をもたらす積乱雲の発生環境場に関する統計的研究
- P136 櫻井 溪太 (京大院理) 日本における竜巻を伴う雷雨の発生環境場とポテンシャル予報に関する研究～宮崎県で発生した台風に伴う竜巻の発生環境場～
- P137 瀬古 弘 (気象研) 竜巻の発生パラメータのアンサンブル予報実験
- P138 宮崎 忠臣 (前工大) 北関東における夏季雷雲と雷放電の観測—前橋上空で発生した雷雲の構造変化—
- P139 大門 禎広 (気象予報士会) 雲断面図による雷予報
- P140 鈴木 智幸 (空自) 冬季スプライトを伴う雷雲と雷放電の多地点観測
- P141 藤吉 康志 (北大低温研) オホーツク海沿岸に設置した2台のXバンドドップラーレーダーを用いた海氷と雪雲の観測 (2)
- P142 亀井 秋秀 (産総研) スカイラジオメータによるエアロゾル観測と衛星データの比較検証
- P143 石元 裕史 (気象研) 地上設置型多波長マイクロ波放射計を用いた温度・水蒸気の1D-Varリトリバブル
- P144 足立 アホロ (気象研) ウィンドプロファイラーの低高度の観測特性
- P145 佐藤 晋介 (NICT) フェーズドアレイ気象レーダーの概念検討
- P146 山本 真之 (京大生存研) MUレーダーとレイリー/ラマンライダーによる中緯度域の巻雲観測
- P147 土屋 拓視 (東海大) 雲判別における光学センサの性能評価と搭載チャンネルの検討
- P148 石田 春磨 (東海大情技セ) 衛星観測における雲スクリーニングアルゴリズムの開発
- P149 真野 裕三 (気象研) ライダーによる非球形エアロゾル粒径分布の推定

大会第2日 [5月19日 (月)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

[キーワード:降水システム・大気境界層・気象予報・観測手法・
気候システム・環境気象・熱帯大気・大気放射・相互作用 他]

- P201 徐 健青 (FRCGC) 二種類のパン蒸発計蒸発量からみたチベットYamdruk Yumtso湖流域の熱・水収支の変化
- P202 萩野谷 成徳 (気象研) 西チベット改則における長期熱収支観測—地表面での地中熱流量推定—
- P203 市毛 智 (筑波大院生命環境) 街区内における気温・顕熱不均質性の時空間変化
- P204 山野 満男 (防衛大地球海洋) 上空風向の変化に対する都市キャニオン内の気流構造変化
- P205 河合 徹 (東工大院理工) 植生の影響を考慮した都市域のスタントン数に対する実験式の提案と都市エネルギー収支モデル (SUMM) の実都市への適用
- P206 日下 博幸 (筑波大計算科学) スカイスポーツのための局地気象研究: 筑波山フライトエリアで発生するアーベントテルミックの要因解明
- P207 林 陽生 (筑波大学院生命環境) 筑波山山頂における風の観測について
- P208 稲村 友彦 (都立大理学部) メソ数値気象モデルを用いた関東地方の風系に与える都市の影響に関する研究-東京における強雨日を対象にして-
- P209 竹村 雅之 (気象予報士会) 千葉県内アメダスにおける夏季晴天日の気温日変化の4半世紀の変化
- P210 田村 一卓 (東北大院理) 局地気象予報システムDS3による仙台空港周辺の海風再現
- P211 東海林 孝幸 (豊技大) ジャカルタの都市拡大による局地気象場の変化について
- P212 西川 将典 (名大院環境) 中国・黄土高原南部における局地循環と積雲発生に関する数値実験
- P213 浜田 崇 (長野環保研) WR Fモデルによる長野市裾花川谷口ジェットの予備的数値シミュレーション
- P214 藤原 忠誠 (北大院・環境科学) ドップラーライダーで検出した「つむじ風」の発生環境場と回転方向
- P215 嶋田 宇大 (北大院地球環境) 北海道南西沖で発生した前線を伴ったポーラーロウの発達模様
- P216 坂崎 貴俊 (北大理) WINDASを用いた下部対流圏の風の日変動の解析
- P217 井上 豊志郎 (東大気候システム) TRMMとGOES-Wを用いた東部熱帯太平洋における深い対流雲とアンビルの特徴
- P218 可知 美佐子 (JAXA/EORC) 熱帯降雨観測衛星 (TRMM) の画像及びデータのオンライン提供
- P219 加藤 雅也 (名大地球水循環) CReSS による台風時における最大瞬間風速の推定
- P220 新藤 永樹 (気象研) 全球モデルと領域非静力学モデルを用いた台風発生・発達実験
- P221 宮本 佳明 (京大防災研) 強風下の海面粗度変化を考慮した抵抗式による台風の強度への影響
- P222 鈴木 真一 (防災科研) 台風 T0416 に伴う高潮の再現実験と温暖化 SST のもとでの数値実験
- P223 小司 禎教 (気象研) 地上GPS: 準リアルタイム解析可降水量の連続同化実験
- P224 下瀬 健一 (九大院理) レーダー屈折率と関係した位相変化を用いた地表付近水蒸気場の二次元変分法解析
- P225 榎本 剛 (地球シミュレータ) スペクトル微係数を用いた双3次元空間内挿法
- P226 田中 博 (筑波大計算科学) 気象庁GPVデータを初期値に用いたNICAMの予報精度について
- P227 瀬古 弘 (気象研) NHM-LETKFを用いた日本域アンサンブル予報実験
- P228 渡邊 明 (福島大理工) 地形による降水強化システム
- P229 櫻木 智明 (九大院理) 九州地方における夏季積乱雲の発達過程
- P230 森 真理子 (高層台) 2007年8月29日徳島で竜巻を発生させたSevere Stormの事例解析

- P231 中里 真久 (気象研) 竜巻予測パラメータの統計的検証
- P232 木下 仁 (鹿児島地台) 2007年10月9日鹿児島県長島町付近に竜巻をもたらした環境場について
- P233 鈴木 修 (気象研 衛星・観測) メソサイクロン検出アルゴリズムの改良ーレーダーデータ中の渦パターンの追跡・同定機能の導入ー
- P234 佐藤 英一 (札幌管区气象台) 2007年10月4日室蘭での海上竜巻について
- P235 吉田 智 (阪大院工) 冬季雷に見られた低高度の電荷領域
- P236 秋田 学 (大阪大院工) 雷嵐観測用VHF 波帯広帯域干渉計の開発 (5) ー冬季雷観測ー
- P237 村田 和隆 (大阪大院工) VHF波帯広帯域デジタル干渉計とC-バンド二重偏波レーダを用いたダーウィーンにおける雷嵐活動事例解析
- P238 中村 美紀 (京大院人間環境) 揚力を利用した翼型係留気球の開発 ーシミュレーション解析による考察と改善ー
- P239 吉川 栄一 (阪大院工) 気象用Ku帯広帯域レーダー2号機の開発と初期観測結果
- P240 篠田 智仁 (京大生存研) 400MHz帯WPR・RASSを用いた亜熱帯域気温微細構造の定常観測
- P241 古本 淳一 (京大生存研) RASS observations of virtual temperature upto UTLS region at Gadanki (13.5N,79.2E)
- P242 関澤 信也 (NICT) 雨滴粒径分布観測のためのウィンドプロファイラ校正法
- P243 川村 誠治 (NICT) 400MHz帯ウィンドプロファイラによる雨滴粒径分布推定の自動化
- P244 斎藤 篤思 (気象研) 氷晶核測定装置を用いた氷晶核数濃度の測定 (その3)
- P245 田尻 拓也 (気象研) エーロゾル・雲粒子センサーの非球形粒子検出特性について (その2) MRI雲生成チャンバー雲物理実験より -
- P246 竹内 延夫 (KEM) 自動計測ライダーデータと気象庁レーダー観測データとの比較
- P247 吉田 良 (東北大院理) ライダ光の偏光解消度と減衰を利用した雲の相識別手法
- P248 三浦 和彦 (東京理科大理) 富士山周辺の自由空間の気温と山頂の気温の違い
- P249 深堀 正志 (気象大) 一酸化炭素 (3-0) 帯の半値半幅の温度依存性と中心波数の圧力シフト

大会第3日 [5月20日 (火)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

[キーワード: 気候システム・物質循環システム・降水システム・
相互作用・大気力学・熱帯大気・大気放射・中高緯度大気 他]

- P301 山内 洋 (気象研) Xバンドレーダーで捉えた人工降雪シーディングの効果
- P302 折笠 成宏 (気象研) 航空機による山岳性降雪雲の直接観測 (その2) 一雲の相からみた統計的特徴
- P303 橋本 明弘 (気象研) 融解層雲に関する基礎的数値実験
- P304 三隅 良平 (防災科研) 多次元ビン法雲物理モデルの簡略化の検討ー力学モデルへの導入に向けてー
- P305 三井 達也 (東大気候システム) 全球雲解像モデルを用いた水雲の放射強制力の雲微物理依存性
- P306 千喜良 稔 (FRCGC) エントレインメント率が環境場に依存する積雲対流スキームの開発 その1: 定式化と基本的な性質
- P307 大垣内 るみ (FRCGC/JAMSTEC) 完新世中期・現在気候シミュレーションにおけるアジアモンスーンと現在気候シミュレーションの海面水温バイアスの相関
- P308 岩崎 博之 (群馬大教育) GSMaP降水量とJCDAS地上気温を用いたモンゴルのNDVI分布の1ヶ月前予測の可能性
- P309 大橋 正宏 (筑波大院生命環境) 地球温暖化予測モデルに見られる北極振動の解析的研究
- P310 池田 正樹 (筑波大院生命環境) 異常気象をもたらすブロッキングと北極振動の関係
- P311 小池 崇子 (鳥大乾地研) モンゴルにおける寒冬・暖冬下の多雪
- P312 猪上 淳 (IORGC) 2007年の夏季海氷減少の実態についてー貨物機から見た北極海ー
- P313 岩崎 杉紀 (防大) キリバスにおける熱帯圏界面付近の雲の頻度分布
- P314 稲津 将 (北大院理) 南半球インド洋から伝播する定常波変動に関する解析
- P315 西 憲敬 (京大院理) インド洋域における上部対流圏循環の鉛直微細構造
- P316 ヒダヤット ラハマット (東北大院理) Modulation of seasonal precipitation over Indonesia by the Madden-Julian Oscillation
- P317 野津 雅人 (神戸大院自然) インドシナ半島内陸部における下部対流圏安定層の生成過程とその季節変化
- P318 高橋 洋 (FRCGC) 2006/07冬季アジアモンスーン域マレーシアでの豪雨と北風サージ
- P319 田中 実 (気象研) 20世紀における日本とアジア地域の夏の気温とアジアモンスーン・太平洋高気圧・PDOの関係
- P320 安中 さやか (東大気候システム) 日本の冬季気温の経年変動とその大規模大気循環場との関係
- P321 高島 久洋 (地球研) 北ユーラシア域における雨量計ベース日降水量格子点データ作成
- P322 川本 温子 (地球研) 雨量計に基づいた高分解能グリッド日降水データの作成
- P323 荒川 理 (気象研) グリッド降水量データセットにおける降水量と標高との関係
- P324 前田 裕子 (九大院総理工) 衛星データ同化SSTを用いた日本海域の冬季気象シミュレーション
- P325 古関 俊也 (北大院地球環境) 黒潮続流域における中規模SST偏差の総観規模擾乱への影響
- P326 佐々木 秀孝 (気象研) 地域気候モデル検証用降水データについて
- P327 釜堀 弘隆 (気象庁気候情報) JRA-25に表現される地上気温と衛星導出植生分布との比較
- P328 筒井 純一 (電中研) JRA-25長期再解析に見出される気温変動の特徴
- P329 石崎 紀子 (気象研) JMA-NHMを用いた2002年7月の日本域における力学的ダウンスケーリングに伴う不確実性の評価
- P330 遠藤 洋和 (気象研) ヤマセに関連した大規模循環場の将来変化について

- P331 足立 恭将 (気象研) CMIP3マルチモデルアンサンブル平均を利用した将来の海面水温・海氷分布の推定
- P332 鈴木 広大 (学芸大) 金星大気放射における吸収係数の評価
- P333 朽木 勝幸 (気象研) 全天分光日射計による積雪物理量の推定
- P334 小林 拓 (山梨大) 黄砂の光学特性の測定およびその放射強制力への影響
- P335 三枝 信子 (産総研) アジア陸域生態系における熱・水・二酸化炭素収支の広域評価に向けて一気象の年々変動を利用した広域スケールでの生態系応答の検出とデータ公開一
- P336 蒲生 稔 (産総研) 緯度落葉樹林帯の展葉・落葉・着葉時期の水平・経年変化
- P337 仲吉 信人 (東工大) 都市および森林の遮断蒸発特性の違い
- P338 鈴木 攻祐 (防衛大地球海洋) ヘリコプター観測によるSPMの鉛直分布
- P339 松枝 秀和 (気象研) 定期航空機によるフラスコサンプリングで観測された一酸化炭素濃度の変動
- P340 猪股 弥生 (気象研) 富士山頂で観測されたラドンの濃度変動と大気循環場との関係一MASINGARによる解析一
- P341 池上 雅明 (気象庁環境気象) 気象庁二酸化炭素輸送モデル (CDTM) とJAL観測データの比較
- P342 大山 博史 (神戸大院自然) つくば高分解能FTSによるCO₂カラム平均濃度の変動観測
- P343 佐藤 友徳 (東大気候システム) 地球温暖化による黄砂発生ポテンシャル変化の検証
- P344 向井 真木子 (東大気候システム) 数値モデルを用いた東アジアにおけるエアロゾルの季節変化とその影響に関する解析
- P345 出牛 真 (気象研) 気象研究所全球化学気候モデルを用いた2007年5月8日、9日の広域的な光化学オキシダント汚染の再現実験
- P346 金久 博忠 (気象大) 流れを横切って伝播するロスビー波の解析解
- P347 藤原 冬樹 (筑波大院生命環境) 偏西風ジェット気流と傾圧不安定波動の相互作用の研究
- P348 小玉 知央 (東北大院理) 水惑星条件における傾圧不安定波動に対するSST上昇の影響 (2)
- P349 間瀬 博文 雷が発生する仕組みと積乱雲中の遊離電子加速機構

大会第4日 [5月21日 (水)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

[キーワード:気候システム・物質循環システム・降水システム・
相互作用・大気力学・熱帯大気・大気放射・中高緯度大気 他]

- P401 高橋 一之 (首都大都市環境) 夏季における東京都区部の風系とヒートアイランド現象との関係 (第1報) —海陸風と気温分布との関係の統計的解析—
- P402 須賀 マウロ (東工大院理工) WRF を用いた, 人工排熱・水蒸気, 及び都市キャノピー構造が関東領域の海陸風系, 境界層高度, 混合比に及ぼす影響に対する検討
- P403 井口 享道 (東大気候システム) レーダーライダー観測とビン法雲物理を組み込んだ気象庁非静力学モデル計算による雲の鉛直微物理構造の比較
- P404 笹重 和史 (阪大院工) 衛星搭載マイクロ波及び赤外放射計データを利用した全球降水マップ (GSMaP_MVK) の地上雨量算出に向けたアルゴリズムの改良の検討
- P405 篠田 太郎 (名大地球水循環) 降水システムの盛衰に対応した雲物理量の確率密度分布の変化 ~雲解像モデルの結果を用いた解析 ~
- P406 安田 珠幾 (気象研) 20世紀後半における全球海面水位トレンドの熱膨張成分
- P407 加藤 大樹 (愛知教育大) QBOのENSO依存性に関する観測的研究
- P408 酒井 久美 (富山大院理工) ENSOに伴う熱帯強制による冬季アジアモンスーンの遠隔応答
- P409 足立 幸穂 (筑波大院生命環境) 東アジアにおける地上低気圧の気候学的分布 -ERA40 Gaussian grid データを用いた解析-
- P410 飯島 慈裕 (IORGC) 東シベリアにおける近年の永久凍土融解に関連した降水量変動
- P411 小濱 里沙 (弘前大理工) 北半球における季節積雪の早期化傾向について
- P412 平沢 尚彦 (極地研) 南極ドームふじ基地の冬季の降雪の鉛直分布
- P413 植松 明久 (NICT) CloudSatと赤道大気レーダで観測された顕著な上昇流を持つ対流雲
- P414 村田 文絵 (高知大理) チェラプンジにおける降水過程に関する研究 (第4報)
- P415 谷田貝 亜紀代 (地球研) 中近東地域の降水・水循環変動の解析
- P416 田畑 悦和 (京大生存研) ウィンドプロファイラー観測に基づくインドネシア海洋大陸域における日変化特性
- P417 赤坂 郁美 (首都大都市環境) フィリピンにおける夏季雨季入りのタイミングと下層循環場及び海面水温分布との関連
- P418 伍井 稔 (国土環境) ボリビア・東部平原におけるエル・ニーニョ/ラ・ニーニャ現象の気候学的影響
- P419 関 隆則 (気象予報士会) MT法による霜・結氷予報の検討
- P420 永田 玲奈 (首都大) 北太平洋高気圧の長期変動と日本の気温・降水量との関係
- P421 石原 幸司 (気象研) 都道府県別に適用した地域頻度解析によるアメダス地点の確率降水量
- P422 酢谷 真巳 (気象大) アメダスデータを用いた気温の再現期待値推定
- P423 若月 泰孝 (FRCGC) 統計的ダウンスケーリングによる極値降水変化率推定のための降水PDF評価法の検討
- P424 上田 亜実 (九大院総理工) 日本海SST微細構造が極東縁辺海域の気象に及ぼす影響について
- P425 阿部 伶美 (富山大理) 日本周辺海域の海面熱フラックスの変動と海面水温変動との関連について
- P426 仲江川 敏之 (気象研) JRA-25で解析された陸面水文過程の再現性
- P427 千葉 長 (気象研) 気圧の季節変化について
- P428 村崎 万代 (気象研) JRA-25の20kmダウンスケーリングデータによる冬期の日降水量の年々変動

- P429 飯塚 聡 (防災科研) 地域気候モデルで再現される海上風の検証
- P430 大楽 浩司 (防災科研) 20km地域気候モデルによる力学的ダウンスケーリングの研究
- P431 坂井 大作 (九大院理) 温暖化に伴う地上気温の年々変動の長期変化とその要因
- P432 内山 明博 (気象研) Integrating Nephelometerの改造
- P433 奥 勇一郎 (京大防災研) MTSAT-1Rでみた雲粒有効半径の日変化
- P434 工藤 玲 (気象研) 地上放射観測から推定したエアロゾル光学特性と地上放射強制力
- P435 尾身 洋 (都立大理) Terra/MODIS を用いた北方常緑針葉樹林における各種衛星指標の変化 ～森林の生育開始時期に着目して～
- P436 中田 淳子 (岐阜大・流域圏) 群落微気候モデルを用いた高山落葉広葉樹林サイトTKYにおける二酸化炭素収支の推定
- P437 北 和之 (茨城大理) PASSを用いた東京における黒色炭素エアロゾルの観測
- P438 和田 晃 (気象大) 高精度ラドン計による南鳥島での大気中ラドンの連続観測
- P439 渡辺 幸一 (富山県立大短大部) 立山における微量気体成分、エアロゾル粒子および霧水・降水化学の観測 (II)
- P440 丹羽 洋介 (東大気候システム) 正20面体準一様格子モデルNICAMにおける空気密度と整合性のあるトレーサ移流スキーム — CO₂輸送実験への有用性の評価 —
- P441 小田 知宏 (阪大院工) フラックス観測を用いた地域スケールCO₂ソース・シンク推定法の性能評価
- P442 高瀬 健太郎 (名大院環境) 日本付近のCO 濃度変動と長距離輸送の解析
- P443 江口 健太 (九大院総理工) 太平洋を横断するアジア起源ダストの3次元構造の解析
- P444 原 由香里 (環境研) 衛星搭載ライダーCALIOP, NIES地上ライダー, ダスト輸送モデルによって示された2007年5月のダストの3次元輸送構造
- P445 五十嵐 康人 (気象研) 2007年春季に観測された個別降水中の人工放射能: 風送ダストによる輸送
- P446 金久 博忠 (気象大) 波打つ平均流の場合のPotential運動量
- P447 山崎 哲 (九大院理) ブロッキングの持続機構に関する事例研究
- P448 荒木 健太郎 (気象大) Eady modelにおける共鳴波と β 項の影響
- P449 山本 博基 (京大院理) 球面軸対称循環に関するパラメータスイープ実験: ハドレー循環とスーパーローテーション

講演者索引

< A >

Abe Remi (阿部 伶美) P425
 Adachi Ahoro (足立 アホロ) P144
 Adachi Sachihō (足立 幸穂) A105
 Adachi Sachihō (足立 幸穂) P409
 Adachi Yukimasa (足立 恭将) P331
 Akasaka Ikumi (赤坂 郁美) P417
 Akita Manabu (秋田 学) P236
 Akiyoshi Hideharu (秋吉 英治) A459
 Amano Tomohiro (天野 智裕) B211
 Aoki Kazuma (青木 一真) C155
 Aoki Tadao (青木 忠生) C152
 Aoki Teruo (青木 輝夫) C201
 Aonashi Kazumasa (青梨 和正) B161
 Aonashi Kazumasa (青梨 和正) B409
 Arakane Sho (荒金 匠) P122
 Arakawa Osamu (荒川 理) P323
 Arakawa Takashi (荒川 隆) A206
 Araki Kentaro (荒木 健太郎) P448
 Ashie Yasunobu (足永 靖信) D454
 Asuma Yoshio (遊馬 芳雄) A301
 Asuma Yoshio (遊馬 芳雄) A302

< B >

Bessho Kotaro (別所 康太郎) B306

< C >

Castillo Cristina (カスティリオ クリスティーナ) P105
 Chiba Masaru (千葉 長) P427
 Chikira Minoru (千喜良 稔) A204
 Chikira Minoru (千喜良 稔) P306

< D >

Daimon Yoshihiro (大門 禎広) P139
 Dairaku Koji (大楽 浩司) P430
 Deushi Makoto (出牛 真) P345

< E >

Eguchi Kenta (江口 健太) P443
 Eito Hisaki (永戸 久喜) B155
 Endo Hirokazu (遠藤 洋和) P330
 Enomoto Takeshi (榎本 剛) P225

< F >

Fuijyoshi Yasushi (藤吉 康志) A453
 Fuijyoshi Yasushi (藤吉 康志) P141
 Fujibe Fumiaki (藤部 文昭) A405
 Fujii Akira (藤井 聡) D151
 Fujiwara Chusei (藤原 忠誠) P214
 Fujiwara Fuyuki (藤原 冬樹) P347
 Fukabori Masashi (深堀 正志) P249
 Fukuoka Yoshitaka (福岡 義隆) P108
 Furumoto Junichi (古本 淳一) C302
 Furumoto Junichi (古本 淳一) P241

Furuzawa Fumie (古澤 文江) B158
 Furuzawa Fumie (古澤 文江) B167

< G >

Gamo Minoru (蒲生 稔) P336
 Genchi Yutaka (玄地 裕) D453
 Goto Daisuke (五藤 大輔) C210

< H >

Hagihara Yuichiro (萩原 雄一朗) C310
 Haginoya Shigenori (萩野谷 成徳) P202
 Hamada Takashi (浜田 崇) P213
 Hara Masayuki (原 政之) A108
 Hara Yukari (原 由香里) P444
 Harada Yayoi (原田 やよい) A407
 Hasegawa Hiroshi (長谷川 寛) A409
 Hashimoto Akihiro (橋本 明弘) B402
 Hashimoto Akihiro (橋本 明弘) P303
 Hashimoto Kosuke (橋本 孔佑) P110
 Hatsuzuka Daisuke (初塚 大輔) A411
 Hayashi Mariko (林 麻利子) A406
 Hayashi Syugo (林 修吾) P129
 Hayashi Yousay (林 陽生) P207
 Hidayat Rahmat (ヒダヤット ラハマット) P316

Hikosaka Kenta (彦坂 健太) B153
 Hinokio Moriaki (檜尾 守昭) D209
 Hirano Yoshihito (平野 嘉仁) C158
 Hirasawa Naohiko (平沢 尚彦) P412
 Hirooka Tohshiko (廣岡 俊彦) A463
 Hirose Naoki (広瀬 直毅) D409
 Hori Masatake (堀 正岳) B453
 Horinouchi Takeshi (堀之内 武) C163
 Horinouchi Takeshi (堀之内 武) D212
 Hoshino Shunsuke (星野 俊介) P123
 Huang Zhiyong (黄 智勇) A412

< I >

Ichige Satoshi (市毛 智) P203
 Ichii Kazuhito (市井 和仁) C456
 Ichikawa Hiroki (市川 裕樹) B460
 Ichinose Toshiaki (一瀬 俊明) D459
 Ichiyonagi Kimpei (一柳 錦平) B413
 Igarashi Yasuhito (五十嵐 康人) P445
 Iguchi Takamichi (井口 享道) P403
 Iijima Yoshihiro (飯島 慈裕) P410
 Iizuka Satoshi (飯塚 聡) P429
 Ikeda Masaki (池田 正樹) P310
 Ikegami Marika (池上 茉莉花) P115
 Ikegami Masaaki (池上 雅明) P341
 Inagaki Atsushi (稲垣 厚至) D310
 Inamura Tomohiko (稲村 友彦) P208
 Inatsu Masaru (稲津 将) P314
 Inomata Yayoi (猪股 弥生) P340
 Inoue Hanako (猪上 華子) B206
 Inoue Jun (猪上 淳) P312

Inoue Makoto (井上 誠) D210
 Inoue Tomoshige (井上 知榮) B454
 Inoue Toshiro (井上 豊志郎) P217
 Inoue Yoko (井上 葉子) D153
 Ishida Haruma (石田 春磨) P148
 Ishidoya Shigeyuki (石戸谷 重之) C103
 Ishihara Koji (石原 幸司) P421
 Ishii Shoken (石井 昌憲) C157
 Ishii Shoken (石井 昌憲) P116
 Ishimoto Hiroshi (石元 裕史) P143
 Ishizaki Noriko (石崎 紀子) P329
 Ito Akinori (伊藤 彰記) C458
 Ito Akira (伊藤 明) D156
 Itsui Minoru (伍井 稔) P418
 Iwabuchi Hironobu (岩淵 弘信) C307
 Iwai Hironori (岩井 宏徳) D308
 Iwamura Kota (岩村 公太) B101
 Iwao Koki (岩男 弘毅) D455
 Iwasaki Hiroyuki (岩崎 博之) P308
 Iwasaki Suginori (岩崎 杉紀) P313
 Izumi Takeki (泉 岳樹) D404

< K >

Kachi Misako (可知 美佐子) P218
 Kadokura Katsunori (門倉 克矩) C301
 Kai Kenji (甲斐 憲次) D303
 Kajino Mizuo (梶野 瑞王) C208
 Kamahori Hirotaka (釜堀 弘隆) P327
 Kamci Akihide (亀井 秋秀) P142
 Kamiguchi Kenji (上口 賢治) A209
 Kanada Sachie (金田 幸恵) A103
 Kanda Manabu (神田 学) D460
 Kanchisa Hirotada (金久 博忠) P346
 Kanehisa Hirotada (金久 博忠) P446
 Kanzawa Hiroshi (神沢 博) A455
 Kasai Yasuko (笠井 康子) C161
 Kataoka Fumie (片岡 文恵) P117
 Kato Atsu (加藤 敦) P126
 Kato Kuranoshin (加藤 内藏進) A402
 Kato Masaya (加藤 雅也) P219
 Kato Teruyuki (加藤 輝之) B201
 Kato Teruyuki (加藤 輝之) B403
 Katou Hiroki (加藤 大樹) P407
 Kawabata Takuya (川畑 拓矢) B213
 Kawai Toru (河合 徹) P205
 Kawamoto Haruko (川本 温子) P322
 Kawamura Seiji (川村 誠治) P243
 Kawase Hiroaki (川瀬 宏明) A107
 Kawashima Shigeto (川島 茂人) D301
 Kazamoto Keisuke (風本 圭佑) D106
 Kido Atsushige (城戸 敦善) D204
 Kinoshita Masashi (木下 仁) P232
 Kinoshita Takenari (木下 武也) A462
 Kita Kazuyuki (北 和之) P437
 Kitabatake Naoko (北畠 尚子) B301

- | | | | | | |
|-------------------------------|------|--------------------------------|------|------------------------------|------|
| Kitoh Akio (鬼頭 昭雄) | B451 | Misumi Ryohei (三隅 良平) | P304 | Nodzu Masato (野津 雅人) | P317 |
| Kizu Shoichi (木津 昭一) | C405 | Mitsui Tatsuya (三井 達也) | P305 | | |
| Kobayashi Hiideki (小林 秀樹) | C457 | Miura Kazuhiko (三浦 和彦) | P248 | < O > | |
| Kobayashi Fumiaki (小林 文明) | B204 | Miyamoto Yoshiaki (宮本 佳明) | P221 | Obama Risa (小濱 里沙) | P411 |
| Kobayashi Hiroshi (小林 拓) | P334 | Miyazaki Kazuyuki (宮崎 和幸) | A465 | Oda Ryoko (小田 僚子) | D411 |
| Kodama Chihiro (小玉 知央) | P348 | Miyazaki Tadaomi (宮崎 忠臣) | P138 | Oda Tomohiro (小田 知宏) | P441 |
| Kodera Kunihiko (小寺 邦彦) | D211 | Miyoshi Takemasa (三好 建正) | B106 | Ogohara Kazunori (小郷原 一智) | D201 |
| Koike Takako (小池 崇子) | P311 | Mizuta Ryo (水田 亮) | C106 | Ohashi Masahiro (大橋 正宏) | P309 |
| Kojima Megumi (児嶋 恵) | A201 | Mochida Akashi (持田 灯) | D452 | Ohgaito Rumi (大垣内 るみ) | P307 |
| Komatsu Asami (小松 麻美) | P101 | Mori Atsushi (森 厚) | A210 | Ohhigashi Yuji (大東 雄二) | C303 |
| Komorori Takuya (小森 拓也) | B302 | Mori Mariko (森 真理子) | P230 | Ohno Yuichi (大野 裕一) | C312 |
| Kondo Hiroaki (近藤 裕昭) | C102 | Mori Masato (森 正人) | D109 | Ohta Yoichiro (太田 洋一郎) | P130 |
| Kondo Keiichi (近藤 圭一) | B104 | Morimoto Takeshi (森本 健志) | B159 | Ohtani Yoshikazu (大谷 義一) | C451 |
| Kondo Yutaka (近藤 豊) | A454 | Moriyama Masakazu (森山 正和) | D451 | Ohyama Hirofumi (大山 博史) | C159 |
| Konoshima Lisako (木島 梨沙子) | B168 | Motoyama Tatsuya (本山 龍也) | C403 | Ohyama Hirofumi (大山 博史) | P342 |
| Kosaka Yosuke (小坂 洋介) | B452 | Motoyoshi Hiroki (本吉 弘岐) | A304 | O'ishi Ryouta (大石 龍太) | C459 |
| Koseki Shunya (古関 俊也) | P325 | Mukai Makiko (向井 真木子) | P344 | O'izumi Mitsuo (大泉 三津夫) | A104 |
| Koshida Tomoki (越田 智喜) | B405 | Murakami Hiroyuki (村上 裕之) | A208 | Oka Akiko (岡 暁子) | D405 |
| Koyama Hiroshi (小山 博司) | B105 | Murakami Hiroyuki (村上 裕之) | P124 | Okada Yuki (岡田 裕毅) | A306 |
| Kozu Toshiaki (古津 年章) | B164 | Murakami Masataka (村上 正隆) | B401 | Okamoto Hajime (岡本 創) | C311 |
| Kuba Naomi (久芳 奈遠美) | B406 | Murata Akihiko (村田 昭彦) | P131 | Okamoto Kota (岡本 功太) | A457 |
| Kuchiki Katsuyuki (朽木 勝幸) | A305 | Murata Fumie (村田 文絵) | P414 | Okamoto Kozo (岡本 幸三) | P127 |
| Kuchiki Katsuyuki (朽木 勝幸) | P333 | Murata Kazutaka (村田 和隆) | P237 | Oki Riko (沖 理子) | B151 |
| Kudo Rei (工藤 玲) | P434 | Murayama Shohei (村山 昌平) | C101 | Oku Yuichiro (奥 勇一郎) | P433 |
| Kunii Masaru (國井 勝) | B108 | Murazaki Kazuyo (村崎 万代) | P428 | Okuda Tomohiro (奥田 智洋) | P120 |
| Kurahashi Takasumi (倉橋 貴純) | A309 | | | Omi Hiroshi (尾身 洋) | P435 |
| Kurihara Kazuo (栗原 和夫) | A101 | < N > | | Onishi Masanori (大西 将徳) | D304 |
| Kurita Naoyuki (栗田 直幸) | A311 | Nagahama Tomoo (長浜 智生) | C160 | Oouchi Kazuyoshi (大内 和良) | B307 |
| Kurita Susumu (栗田 進) | P106 | Nagano Yoshinori (永野 良紀) | A408 | Orikasa Narihiro (折笠 成宏) | P302 |
| Kuroda Yuhji (黒田 友二) | A313 | Nagasawa Chikao (長澤 親生) | C156 | Osada Kazuo (長田 和雄) | C205 |
| Kusaka Hiroyuki (日下 博幸) | D457 | Nagata Rena (永田 玲奈) | P420 | Ose Tomoaki (尾瀬 智昭) | B464 |
| Kusaka Hiroyuki (日下 博幸) | P206 | Naito Shigenori (内藤 成規) | D103 | Oshima Kazuhiro (大島 和裕) | B466 |
| Kusunoki Kenichi (楠 研一) | B205 | Nakaegawa Toshiyuki (仲江川 敏之) | D154 | Oshima Naga (大島 長) | C203 |
| Kusunoki Kenichi (楠 研一) | D309 | Nakaegawa Toshiyuki (仲江川 敏之) | P426 | Ota Yoshifumi (太田 芳文) | C154 |
| Kusunoki Shoji (楠 昌司) | A207 | Nakagawa Kiyotaka (中川 清隆) | P104 | Otsuka Kiyotoshi (大塚 清敏) | P118 |
| Kusunoki Shoji (楠 昌司) | B463 | Nakai Sento (中井 専人) | B407 | Otsuka Shigenori (大塚 成徳) | C413 |
| | | Nakajima Hideaki (中島 英彰) | A460 | | |
| < M > | | Nakajima Takashi (中島 孝) | B411 | < S > | |
| Mabuchi Kazuo (馬淵 和雄) | A202 | Nakamura Masaomi (中村 誠臣) | B109 | Saigusa Nobuko (三枝 信子) | P335 |
| Machida Toshinobu (町田 敏暢) | C104 | Nakamura Miki (中村 美紀) | P238 | Saito Atsushi (齋藤 篤思) | P244 |
| Maeda Yuko (前田 裕子) | P324 | Nakamura Takuji (中村 卓司) | A467 | Saito Fuyuki (齋藤 冬樹) | A303 |
| Maejima Yasumitsu (前島 康光) | D105 | Nakano Fujiyuki (中野 藤之) | C410 | Saito Kazuo (齋藤 和雄) | B107 |
| Mano Yuzo (真野 裕三) | P149 | Nakano Masuo (中野 満寿男) | A102 | Saito Kazuo (齋藤 和雄) | P128 |
| Maruyama Ayako (丸山 綾子) | P111 | Nakata Junko (中田 淳子) | P436 | Saitoh Naoko (齋藤 尚子) | C151 |
| Masaki Takeshi (正木 岳志) | C412 | Nakatsuka Takeshi (中塚 武) | A310 | Saitou Naoki (齋藤 直彬) | D208 |
| Mase Hirofumi (間瀬 博文) | P349 | Nakayama Hideaki (中山 秀晃) | D152 | Sakai Daisaku (坂井 大作) | P431 |
| Mashiko Wataru (益子 渉) | B202 | Nakayoshi Makoto (仲吉 信人) | P337 | Sakai Kumi (酒井 久美) | P408 |
| Masuda Kazuhiko (増田 一彦) | C308 | Nakazato Masahisa (中里 真久) | P103 | Sakai Ryota (酒井 亮太) | B102 |
| Masunaga Hirohiko (増永 浩彦) | B154 | Nakazato Masahisa (中里 真久) | P231 | Sakazaki Takatoshi (坂崎 貴俊) | P216 |
| Matsueda Hidekazu (松枝 秀和) | P339 | Nakazawa Tetsuo (中澤 哲夫) | B157 | Sakuragi Tomoaki (櫻木 智明) | P229 |
| Matsueda Mio (松枝 未遠) | B303 | Naoc Hiroaki (直江 寛明) | C207 | Sakurai Keita (櫻井 暎太) | P136 |
| Matsueda Mio (松枝 未遠) | D107 | Nasuno Tomoe (那須野 智江) | C404 | Sampe Takeaki (三瓶 岳昭) | D408 |
| Matsui Hitoshi (松井 仁志) | C209 | Nemoto Yukiko (根本 由紀子) | P114 | Sano Tetsuya (佐野 哲也) | P121 |
| Matsuo Yuki (松尾 勇氣) | A307 | Ninomiya Kozo (二宮 洗三) | B462 | Sasaki Hidetaka (佐々木 秀孝) | P326 |
| Matsushima Kazuhiro (松島 和宏) | D206 | Nishi Noriyuki (西 憲敬) | P315 | Sasaki Hiromori (佐々木 啓壮) | B209 |
| Mega Tomoaki (妻鹿 友昭) | C304 | Nishikawa Masanori (西川 将典) | P212 | Sasashige Kazushi (笹重 和史) | P404 |
| Mikami Aya (三上 彩) | P132 | Nishita Chiharu (西田 千春) | C204 | Sassa Koji (佐々 浩司) | B203 |
| Mikami Takehiko (三上 岳彦) | D403 | Niwa Yosuke (丹羽 洋介) | P440 | Sato Hisashi (佐藤 永) | C455 |
| Mikami Takehiko (三上 岳彦) | D406 | Noda Akira (野田 暁) | A203 | Sato Kaori (佐藤 可織) | B408 |

- Sato Naoki (佐藤 尚毅) B457
 Sato Tomonori (佐藤 友徳) C406
 Sato Tomonori (佐藤 友徳) P343
 Satoh Masaki (佐藤 正樹) D101
 Satoh Shinsuke (佐藤 晋介) B152
 Satoh Shinsuke (佐藤 晋介) P145
 Satomura Takehiko (里村 雄彦) A452
 Satou Eiichi (佐藤 英一) P234
 Sawa Risa (澤 理紗) D302
 Sawa Yousuke (澤 庸介) C105
 Sawada Takehiko (澤田 岳彦) P113
 Seiki Ayako (清木 亜矢子) B458
 Seki Takanori (関 隆則) P419
 Sekizawa Shinya (関澤 信也) P242
 Seko Hiromu (瀬古 弘) P137
 Seko Hiromu (瀬古 弘) P227
 Seto Shinta (瀬戸 心太) B166
 Shige Shoichi (重 尚一) B162
 Shimada Teruhisa (島田 照久) D410
 Shimada Udai (嶋田 宇大) P215
 Shimizu Atsushi (清水 厚) C313
 Shimizu Shuji (清水 収司) B156
 Shimose Ken-ichi (下瀬 健一) P224
 Shindo Eiki (新藤 永樹) P220
 Shinmura Shuhei (新村 周平) B461
 Shinoda Taro (篠田 太郎) P405
 Shinoda Tomonori (篠田 智仁) P240
 Shirayama Yohei (白山 洋平) A401
 Shoji Yoshinori (小司 禎教) P223
 Suda Kazuto (須田 一人) D458
 Suga Mauro (須賀 マウロ) P402
 Sugawara Hirofumi (菅原 広史) D456
 Sugawara Satoshi (菅原 敏) A464
 Sugi Masato (杉 正人) C411
 Sugimoto Shiori (杉本 志織) B310
 Sugiyama Masahiro (杉山 昌広) D102
 Suya Masami (酔谷 真巳) A403
 Suya Masami (酔谷 真巳) P422
 Suzuki Tsuneaki (鈴木 恒明) B456
 Suzuki Hiroto (鈴木 博人) B207
 Suzuki Kazuyoshi (鈴木 和良) C453
 Suzuki Kodai (鈴木 広大) P332
 Suzuki Kosuke (鈴木 攻祐) P338
 Suzuki Osamu (鈴木 修) P233
 Suzuki Shin-ichi (鈴木 真一) P222
 Suzuki Tomoyuki (鈴木 智幸) P140
 Suzuki Yasushi (鈴木 靖) P107
- < T >
 Tabata Yoshikazu (田畑 悦和) P416
 Tajiri Takuya (田尻 拓也) P245
 Takagi Masahiro (高木 征弘) D203
 Takahashi Hiroshi (高橋 洋) P318
 Takahashi Kazuyuki (高橋 一之) D402
 Takahashi Kazuyuki (高橋 一之) P401
 Takahashi Kiyotoshi (高橋 清利) P125
 Takahashi Nobuhiro (高橋 暢宏) B165
 Takahashi Yasushi (高橋 靖) P119
 Takahashi Yoshiyuki (高橋 芳幸) D202
- Takase Kentaro (高瀬 健太郎) P442
 Takashima Hisahiro (高島 久洋) P321
 Takaya Yoshimasa (高谷 美正) P134
 Takayabu Yukari (高藪 縁) B163
 Takemi Tetsuya (竹見 哲也) D305
 Takemura Masayuki (竹村 雅之) P209
 Takemura Toshihiko (竹村 俊彦) C212
 Takeshi Enomoto (榎本 剛) P225
 Takeuchi Nobuo (竹内 延夫) P246
 Takimoto Hiroshi (瀧本 浩史) D311
 Tamura Kazutaka (田村 一卓) P210
 Tanaka Hiroshi (田中 博) D108
 Tanaka Hiroshi (田中 博) P226
 Tanaka Minoru (田中 実) P319
 Tanaka Sou (田中 創) B212
 Tateno Satoshi (館野 聡) A456
 Tokairin Takayuki (東海林 孝幸) P211
 Tomikawa Yoshihiro (富川 喜弘) A461
 Tsuchida Atsushi (槌田 敦) A211
 Tsuchiya Chikara (土屋 主税) D104
 Tsuchiya Takumi (土屋 拓視) P147
 Tsushima Yoko (對馬 洋子) B459
 Tsutsui Junichi (筒井 純一) P328
- < U >
 Uchino Osamu (内野 修) C107
 Uchiyama Akihiro (内山 明博) P432
 Ueda Ami (上田 亜実) P424
 Ueda Sayako (上田 紗也子) C206
 Uematsu Akihisa (植松 明久) C162
 Uematsu Akihisa (植松 明久) P413
 Ueno Kenichi (上野 健一) B311
 Ueno Kenichi (上野 健一) P109
 Ueno Mitsuru (上野 充) C408
 Ushio Tomoo (牛尾 知雄) B160
 Ushiyama Tomoki (牛山 朋来) B410
- < W >
 Wada Akira (和田 晃) P438
 Wakaura Masatsugu (若浦 雅嗣) D155
 Wakazuki Yasutaka (若月 泰孝) P423
 Wakimizu Kenji (脇水 健次) P102
 Watanabe Akira (渡邊 明) P228
 Watanabe Koichi (渡辺 幸一) P439
 Watanabe Masahiro (渡部 雅浩) A205
 Watanabe Shingo (渡辺 真吾) A466
 Watarai Yasushi (渡来 靖) P112
 Wu Peiming (伍 培明) C407
- < X >
 Xu Jianqing (徐 健青) P201
- < Y >
 Yagai Isamu (谷貝 勇) A404
 Yamada Tetsuji (山田 哲司) D306
 Yamada Yoshinori (山田 芳則) C305
 Yamada Yoshinori (山田 芳則) C306
 Yamaguchi Munehiko (山口 宗彦) B304
 Yamaguchi Munehiko (山口 宗彦) B305
- Yamamoto Hiroki (山本 博基) P449
 Yamamoto Keiko (山本 恵子) P133
 Yamamoto Masaru (山本 勝) D205
 Yamamoto Masayuki (山本 真之) P146
 Yamane Yusuke (山根 悠介) A410
 Yamano Mitsuo (山野 満男) P204
 Yamanouchi Akiko (山内 明子) D407
 Yamanouchi Takashi (山内 恭) A458
 Yamao Rieko (山尾 理恵子) B412
 Yamasaki Masanori (山岬 正紀) B308
 Yamasaki Masanori (山岬 正紀) B309
 Yamashita Daichi (山下 大地) P135
 Yamashita Katsuya (山下 克也) B404
 Yamashita Kazuya (山下 和也) D307
 Yamashita Yousuke (山下 陽介) A312
 Yamato Hiroaki (大和 広明) D401
 Yamauchi Hiroshi (山内 洋) B208
 Yamauchi Hiroshi (山内 洋) P301
 Yamazaki Akira (山崎 哲) P447
 Yanagino Takeshi (柳野 健) B312
 Yanase Wataru (柳瀬 亘) C409
 Yasuda Tamaki (安田 珠幾) B465
 Yasuda Tamaki (安田 珠幾) P406
 Yasunaga Kazuaki (安永 教明) C401
 Yasunaga Kazuaki (安永 教明) C402
 Yasunaka Sayaka (安中 さやか) P320
 Yatagai Akiyo (谷田貝 亜紀代) P415
 Yohgai Toshiroh (用具 敏郎) B210
 Yokoi Satoru (横井 覚) B455
 Yokoshima Satoru (横嶋 悟) D207
 Yonehara Hitoshi (米原 仁) B103
 Yoshida Ryo (吉田 良) P247
 Yoshida Ryuhei (吉田 龍平) C452
 Yoshida Satoru (吉田 智) P235
 Yoshida Yukio (吉田 幸生) C153
 Yoshikane Takao (吉兼 隆生) A106
 Yoshikane Takao (吉兼 隆生) A109
 Yoshikawa Eiichi (吉川 栄一) P239
 Yoshimori Masakazu (吉森 正和) A308
 Yoshino Jun (吉野 純) C454
 Yukimoto Seiji (行本 誠史) B467
 Yumimoto Keiya (弓本 桂也) C211
- < Z >
 Zhang Daizhou (張 代州) C202